令和３年教育委員会要綱第３号

中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会設置要綱

（目的）

第１条　中川村における児童生徒の減少や多様化、学校施設の老朽化等を踏まえ、中川村立小・中学校の将来を展望した学校のあり方及び就学前からの一貫した指導・支援のあり方等について、幅広い見地から検討し方向性を定めるため、中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第２条　委員会は、中川村教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じて、前条の目的を達成するため、調査及び検討を行い、教育委員会に基本方針を答申するものとする。

（組織）

第３条　委員会は、20 人以内の委員をもって組織する。

２　委員会の委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 識見を有する者

(2) 議会を代表する者

(3) 村内の小・中学校長

(4) 村内の保育所の所長

(5) 保護者を代表する者

(6) 地域を代表する者

(7) その他教育委員会が適当と認める者

（任期）

第４条　委員の任期は、２年とする。ただし、教育委員会が必要と認めるときは、これを延長することができる。

２　委員が欠けた場合における補充委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員長及び副委員長）

第５条　委員会に、委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

２　委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。

３　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）

第６条　会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

２　会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

３　会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否に対し同数のときは、議長の決するところによる。

４　委員長は、必要に応じて委員以外の者に会議への出席を求め、その意見を聴くことができる。

（地域別懇談会）

第７条　委員長は、各地域からの意見を聴取するために必要と認めたときは、委員会に諮り、地域

別懇談会を開催することができる。

（守秘義務）

第８条　委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

（庶務）

第９条　委員会の庶務は、教育委員会総務学校係において処理する。

（補足）

第 10 条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この告示は、告示の日から施行する。

（会議の招集の特例）

２　第６条第１項の規定にかかわらず、この要綱の施行の日後最初に開かれる委員会は、教育委員会が招集する。

中川村保育園、小・中学校のあり方検討委員会　名簿

◎：委員長　○：副委員長

No.	区　分	氏　名	所属等	備　考
1	識見を有する者	◎下平　達朗	前中川村教育長	
2		下平　道広	社会教育委員会	
3	議会を代表する者	松澤　文昭	厚生文教委員会	R3.4.1-R4.8.23
4		桂川　雅信	厚生文教委員会	
5		島崎　敏一	厚生文教委員会	R4.8.24-R5.3.31
6	村内の小・中学校長	小島　　諭	中川東小学校	R3
7		清水　秀朗		R4
8		松﨑　善幸	中川西小学校	
9		石井　克之	中川中学校	R3
10		牛山　博行		R4
11	村内の保育所の所長	平田　由美子	みなかた保育園	
12		片桐　章子	片桐保育園	
13	保護者を代表する者	冨永　崇紀	中川東小学校ＰＴＡ	
14		小林　和弥	中川西小学校ＰＴＡ	
15		米山　喜明	中川中学校ＰＴＡ	
16		井山　　大	みなかた保育園保護者会	R3
17		齋藤　正樹		R4
18		坂口　浩二	片桐保育園保護者会	R3
19		髙柳　善明		R4
20		平栗　亜紀	保護者枠（保育園女性委員）	R3
21		平谷　美春		R4
22	地域を代表する者	○宮下　進吾	商工会	
23		松村　隆一	社会福祉協議会	
24		若宮　孝夫	総代会	R3.4.1-R3.12.31
25		橋枝　英紀		R4.1.1-R4.12.31
26		鈴木　　勝		R5.1.1-R5.3.31
27		米山　京子	民生児童委員会	R3.4.1-R4.12.31
28		遠山　宏子		R5.1.1-R5.3.31

事務局

No.	所　属	氏　名	役職等	備　考
1	教育委員会	片桐　俊男	教育長	
2		桃澤　清隆	教育次長	R3
3		上山　公丘		R4
4		髙柳　康広	総務学校係長	
5		安富　郁勇	社会教育係長	
6		橋枝　英紀	指導主事	R3.4.1-R3.12.31 R5.1.1-R5.3.31
7		遠山　裕夫	指導主事	R4
8	保健福祉課	眞島　　俊	課長	R3
9		水野　恭子		R4
10		上山　公丘	社会福祉係長	R3
11		湯澤理知子		R4
12		荒井　貴之	保健医療係長	
13		出澤　秀和	社会福祉係	

任期２年　令和３年４月１日～令和５年３月31日

業務支援

No.	事業所名	所在地	備　考
1	特定非営利活動法人　ＳＣＯＰ	松本市	R4

令和3年度

第1回
中川村保育園、小・中学校あり方検討委員会

中川村の教育環境について

令和3年7月29日（木）　午後3時00分
中川文化センター　小ホール

中川村第６次総合計画＜教育・文化分野＞

- 目指すべき方向

　生涯を通じ、家庭、地域、学校が連携して、郷土を愛し誇りに思う「人」を育て、悠久の歴史と文化を継承する「こころ豊かな教育」を行うことができる“なかがわ”を目指す。

- 実現するための政策

① 未来を担う人材の育成と環境整備

・幼児期から高等教育まで充実した教育環境を提供

・子どもに応じた支援の充実

・家庭、地域、学校が連携した教育を提供

② 生涯学習の推進

③ 文化の継承と文化芸術の創造

④ 生涯スポーツの推進

⑤ 国際交流・多文化共生社会の実現

⑥ 人権の尊重

中川村の保育園、小・中学校の現状

① 中川村の人口の推移と今後の予測

② 児童生徒数およびその推移

③ 児童生徒数の地区別の推移

④ 特別支援学級（学校）在籍児童生徒数の推移

⑤ 中川村小中学校の沿革（現校舎の建築年数）

① 中川村の人口（推移）

各年5月１日現在

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
人口	5660	5592	5604	5575	5507	5507	5420	5389	5367	5331	5230	5236	5211	5159	5098	5039	4985	4947	4903	4841	4791
世帯	1509	1497	1526	1545	1556	1564	1558	1568	1581	1590	1577	1592	1610	1613	1615	1624	1627	1643	1660	1663	1680

【参考】

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～

（文科省　平成27年1月27日）より抜粋

・学級が少人数であることのメリット

・学年に複数の学級があることのメリット

・学級数が少ないことによる学校運営上の課題

などを基に，望ましい学級数等について述べている

【学級数が少ないことによる学校運営上の課題】

○教員数が少なくなる　→　そのことによる課題

・加配の教員なしには多様な指導形態がとりにくい

・バランスのとれた教職員配置が困難になる

・指導技術の相互伝達がなされにくい（学年会や教科会が成立しない）

○児童生徒に直接与える影響

・社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい

・学級同士が切磋琢磨する教育活動ができない

・多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

小・中学校の適正規模等について

・小学校では１学年２学級（全校で12学級）以上が望ましい

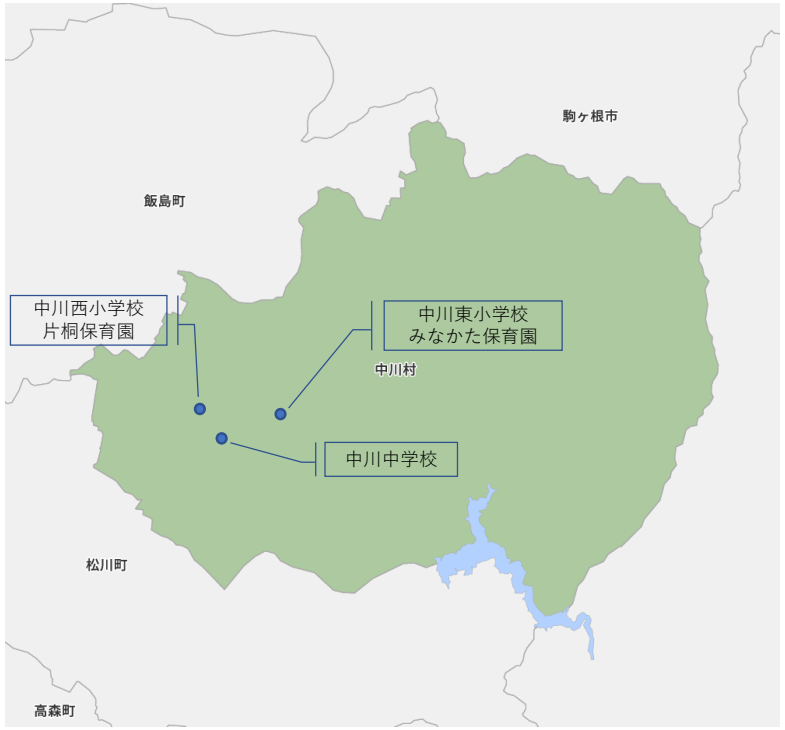
・中学校でも１学年２学級（全校で６学級）以上が望ましいが，教科担任制等について考慮すると，できれば全校で９学級以上を確保することが望ましい

中川村の保育園、小・中学校

【片桐地区】

片桐保育園
未満児保育

中川西小学校
児童数141人　学級数 6 学級
2 学級



【南向地区】

みなかた保育園
未満児保育

中川東小学校
児童数118人　学級数 6 学級
3 学級

【全村】

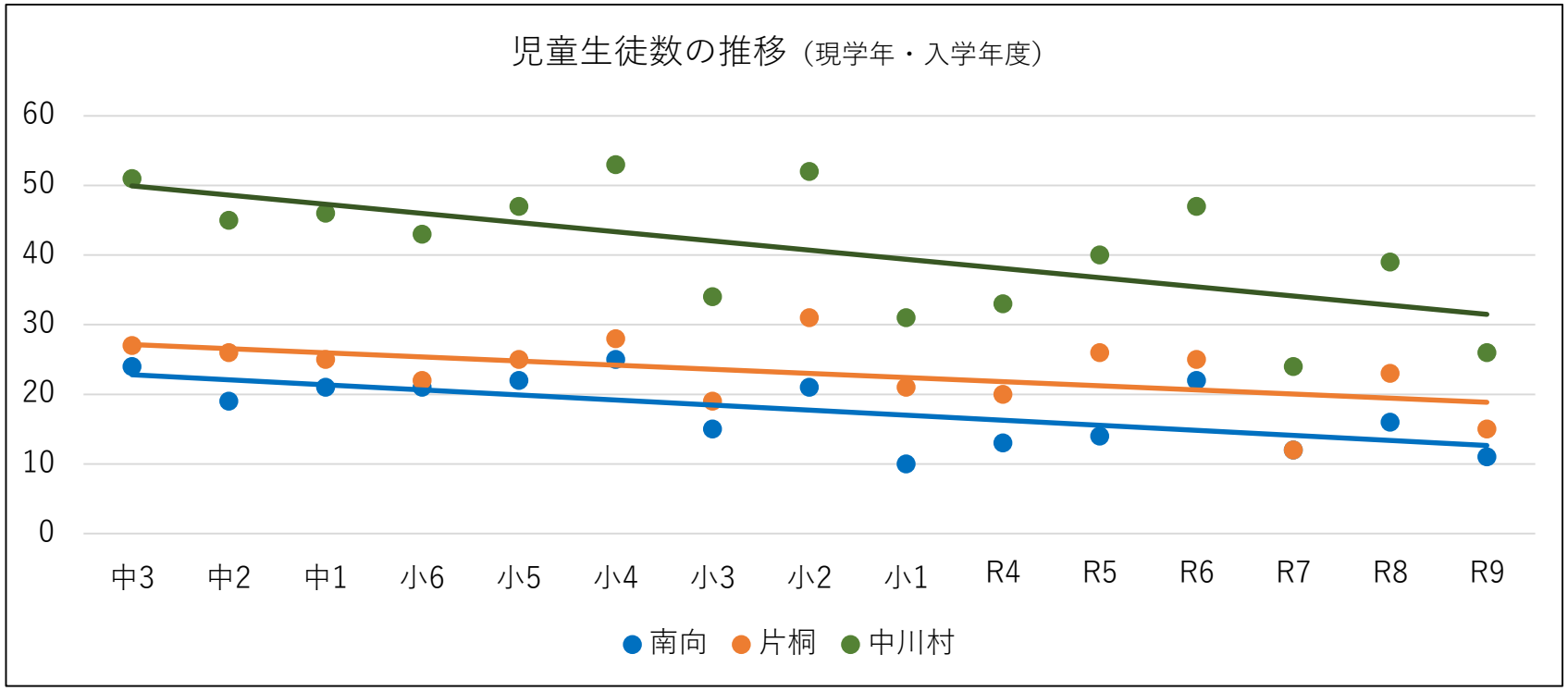
中川中学校
生徒数139人　学級数 6 学級
2 学級

特別支援学校小・中学部　合計4人

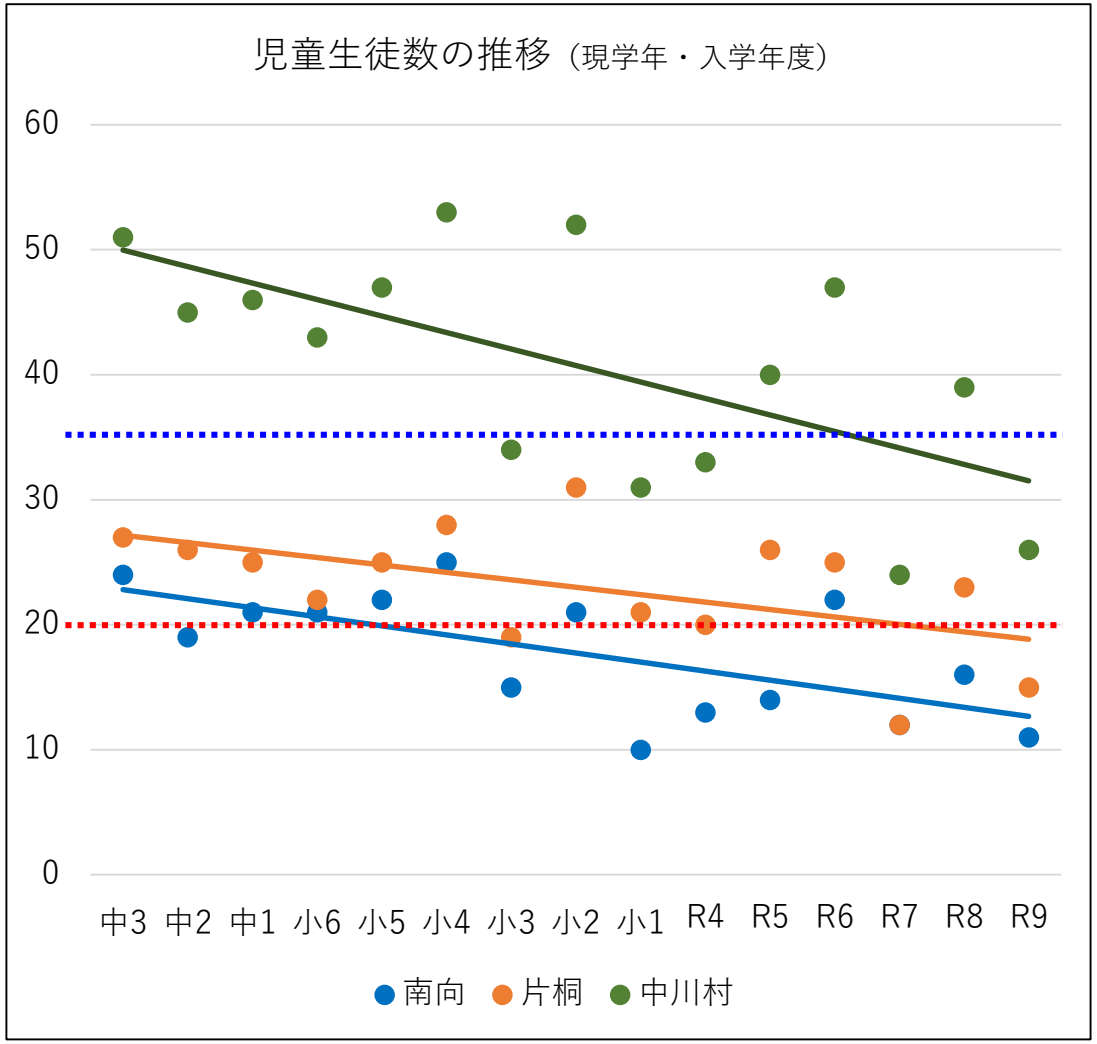
② 児童生徒数の推移（現在の学年・入学年度による）

	中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1	R4	R5	R6	R7	R8	R9
南向	24	**19**	21	21	22	25	**15**	21	**10**	**13**	**14**	22	**12**	**16**	**11**
片桐	27	26	25	22	25	28	**19**	31	21	20	26	25	**12**	23	**15**
中川村	**51**	**45**	**46**	**43**	**47**	**53**	34	**52**	31	33	**40**	**47**	24	**39**	26

※ 赤字は35人以上の学年　青字は20人未満の学年

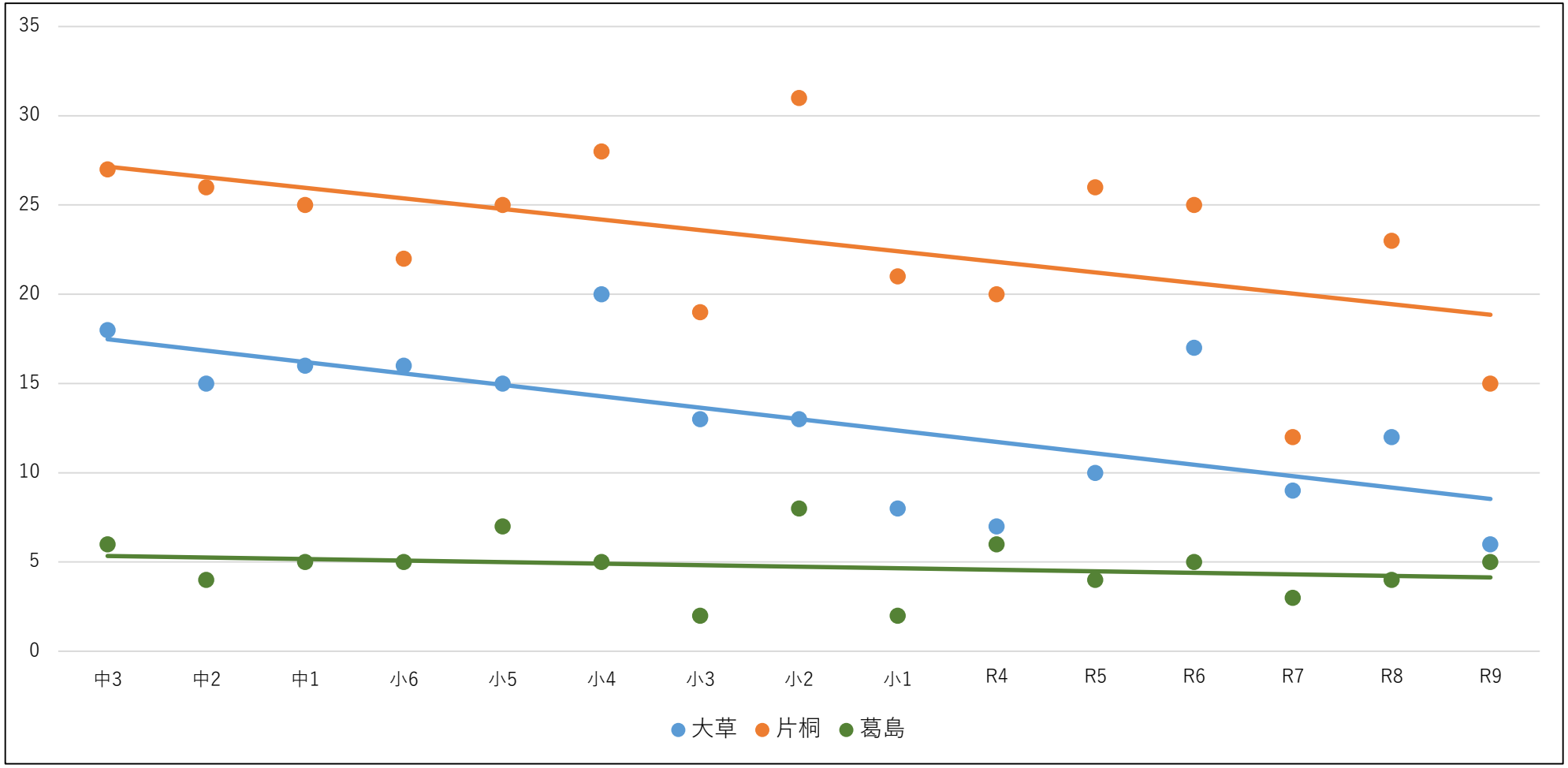


② 児童生徒数の推移

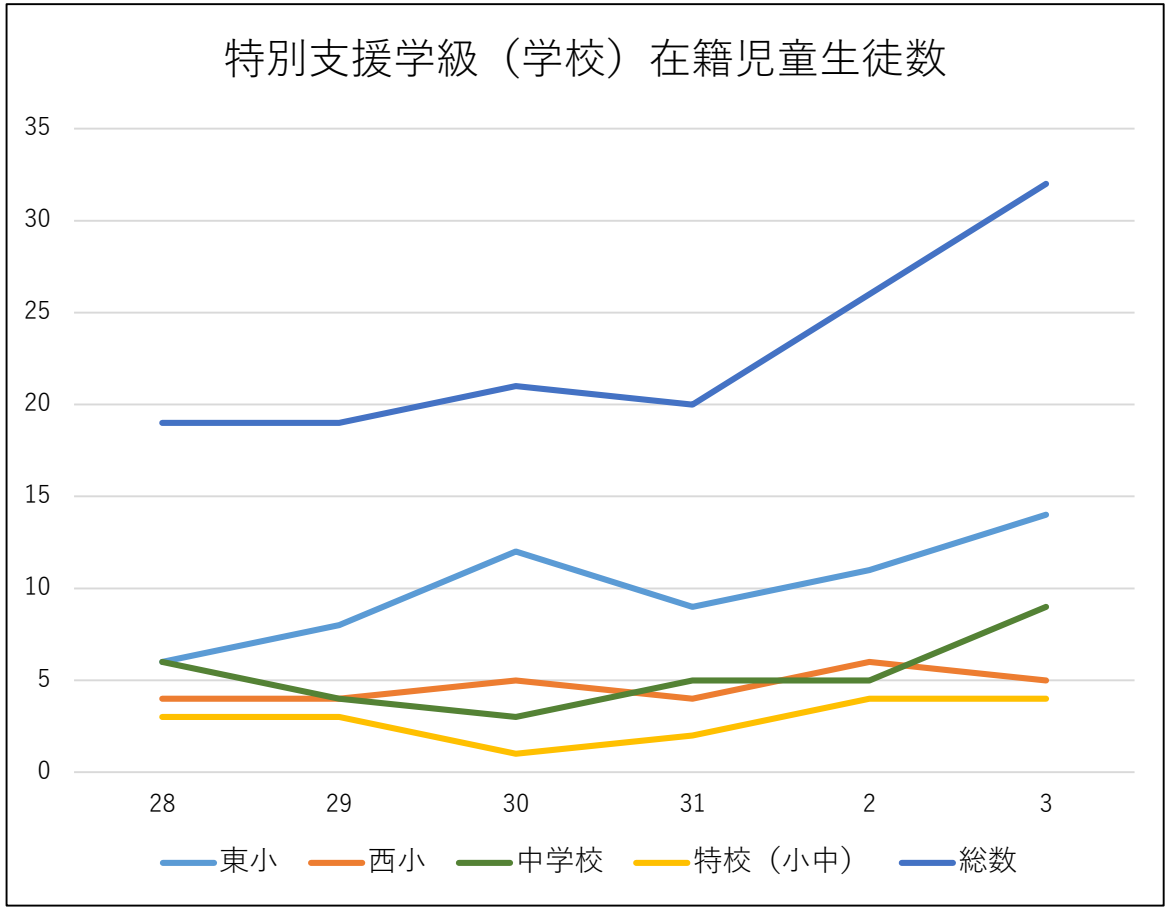


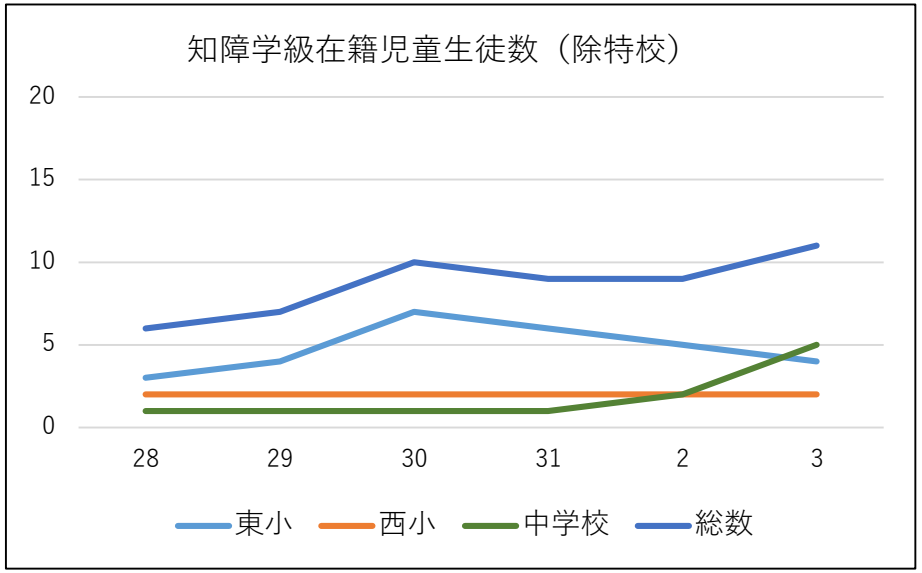
- 小学校は，単級が継続していく
- 中学校は現在全学年２学級だが、現在の小学校３年生が入学する令和７年度より単級が断続的に始まる
- 平均して考えると，15年間で，片桐地区は現在の７割程度に、南向地区は現在の５割程度に減少
- 中学校は，およそ現在の６割程度に減少
- 中学校は35人を下回り、令和7年度以降は全校で一学年または二学年が1学級（単級）という年が続いていくと考えられる

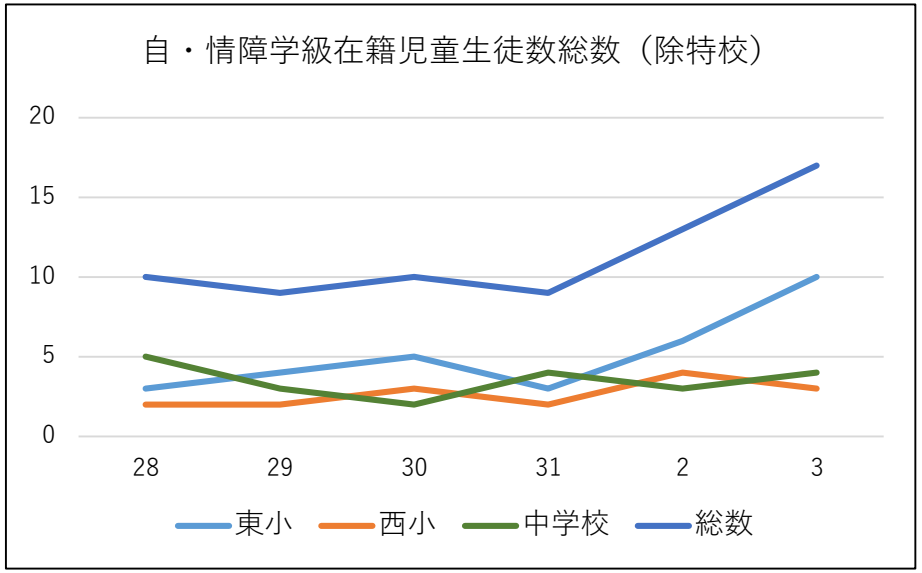
③ 児童生徒数地区別の推移（大字別）



④ 特別支援学級（学校）在籍児童生徒数の推移







⑤ 中川村小中学校の沿革　中川東小学校

昭和50年度　葛島分校閉校
昭和51年　旧中川東中学校に移転
（本校・分校統合）
昭和57年　中川東小学校改築工事起工
（南校舎取り壊し　→　新校舎）
昭和58年　新校舎落成，北校舎取り壊し
昭和61年度　体育館，昇降口棟落成

新校舎落成　→　現在
38年経過

⑤ 中川村小中学校の沿革　中川西小学校

昭和51年	旧中川西中学校に移転
昭和56年	中川西小学校教室棟改築工事起工
昭和57年	**新校舎（教室棟）落成**
昭和59年	管理棟校舎建築起工
昭和60年	**管理棟校舎落成**
昭和62年	**新体育館起工，落成**

新校舎落成　→　現在
39年経過

⑤ 中川村小中学校の沿革　中川中学校

昭和48年　統合中学校起工　※昭和33年村合併からの懸案
昭和49年　管理棟竣工
昭和50年　教室棟竣工
昭和51年　新校舎落成，中川中学校開校
平成4～6年度　大規模改修工事
平成17～18年　教室棟・体育館耐震工事，改修工事
平成19年　給食センター改修工事

管理棟竣工　→　現在　47年経過
大規模改修から25年
教室棟竣工　→　現在　46年経過
大規模改修から24年

中川村
保育園・小・中学校のあり方
検討委員会

長野県教育委員会事務局　義務教育課　　令和３年10月５日（火）

今日お話しする内容

1　小規模校・少人数学級のメリットとデメリット

2　複式学級とは？

3　小中一貫校と義務教育学校のちがい

4　学校統合に関する国・長野県の方向性

中川村の小・中学校（令和３年度５月）

	中川東小学校	中川西小学校	中川中学校
学級数 （特支級）	6 （３）	6 （２）	6 （２）
児童生徒数	１１８	１４１	１３９
教員数 （長頭除く）	教諭　9 講師　2	教諭　7 講師　3	教諭　12 講師　2

令和3年5月1日現在　文部科学省「学校基本調査」

学級数別学校数（令和３年度・長野県）

学級数	6以下	7～12	13～18	19～24	25以上	計
小学校	143	112	56	37	6	354
構成比%	40.4	31.6	15.8	10.5	1.7	100.0

学級数	3以下	4～6	7～12	13～18	19～22	計
中学校	44	27	67	38	11	187
構成比%	23.6	14.4	35.8	20.3	5.9	100.0

文部科学省「学校基本調査」

学級数による教員の配当　【小学校】

学級数	校長	教頭	担任	専科	計
1	1	1	1		3
2	1	1	2		4
3	1	1	3		5
4	1	1	4		6
5	1	1	5		7
6	1	1	6	1	9
7	1	1	7	1	１０

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」
「長野県学校職員定数条例」

学級数による教員の配当　【中学校】

学級数	校長	教頭	担任	専科	計
1	1	1	1		3
2	1	1	2	2	6
3	1	1	3	4	9
4	1	1	4	3	9
5	1	1	5	3	１０
6	1	1	6	3	１１

「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」
「長野県学校職員定数条例」

1　小規模校・少人数学級のメリットとデメリット

学校・学級の
人数が少ない　›　人を増やす

子ども・親
- 多様な同世代他者との交流
- 部活動の選択肢，通学・移動
- 地域の伝統行事の後継者
- PTA等地域活動　…など

学校
- 専科教員，専門教科教員の配置
- 校務の複数担当，多忙化
- 単級 ⇒ 複式学級　…など

行政
- 過疎，少子・高齢化の対策
- 施設・設備の管理・維持・改修
- 将来的なビジョンの提示　…など

集団で学ぶ

学校・学級の
人数が少ない　›　人を増やす

１学級で学習する子どもを増やすために

集団で学ぶ

同じ学校の中で
　①複式学級
　②異年齢学習
近隣の学校と
　③統合
　④合同授業
　⑤小規模特認校（県内10校）

学校・学級の
人数が少ない　人を増やす

教員を増やすために

加配（県費）

①複式解消　②日本語指導　③発達障がい支援
④通級指導教室　⑤教育課題対応　⑥山間地指導
⑦中学校少人数学習　⑧中学校非免許解消
⑨小学校学習習慣形成支援　⑩統合に伴う学校づくり支援　…など

多様な教員から学ぶ

加配（市町村費）

市町村それぞれの措置

専門の教員から学ぶ

学校・学級の
人数が少ない

価値をどこに置くかで
見え方が変わる

集団の中での
練り合い・競い合い

社会性，コミュニケーション能力

人間関係の固定化，多様な見方・考え方

小回りがきく
臨機応変の対応

個に応じた
きめ細かさ

競争社会

共生社会

複式学級＝２以上の学年で１学級

【国基準】２つの学年で小学校１６名，中学校８名
１年を含む学年は８名

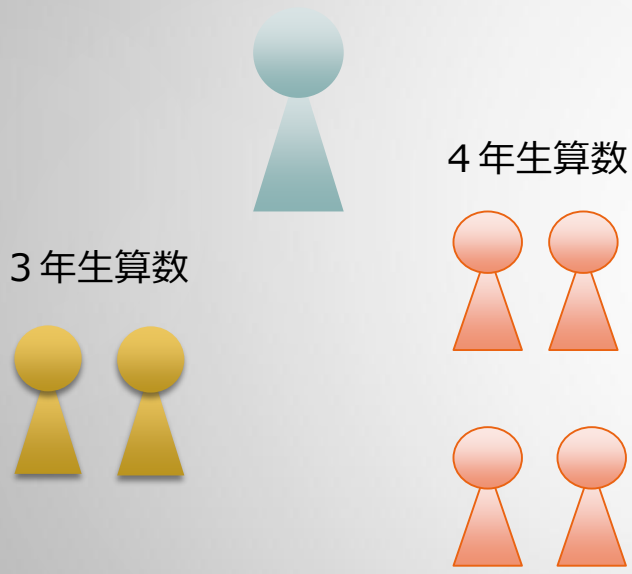
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年
児童数	4	8	4	5	8	9
	12	12	9	13		

【小規模校の豊かな教育環境づくり研究としての
複式学級解消措置加配】

※令和３年度 小学校37校 ５４名を加配

複式学級の授業

○ 先生１人が 異学年の子どもを同時に指導



○ 複式授業

○ 複式学級解消措置

○ 弾力的な教育課程

・教科や単元により，
あえて
複式・合同・全校で授業

3　小中一貫校と義務教育学校のちがい

学校教育法の改正　（平成28年4月）

【小中連携】　小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育

運用上の取組では一定の限界

△一貫性の継続　△２校間の調整　△中１ギャップ
△教職員の多忙化　△命令系統

法改正

…制度上の基盤整備

○継続・安定・効果的な教育活動　○国・県の支援

【小中一貫】　小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

義務教育学校　と　小中一貫型小・中学校

小中連携教育

小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指すさまざまな教育

小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校が目指す子ども像を共有し、９年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育

①義務教育学校

修業年限９年
（前期課程６年＋後期課程３年）

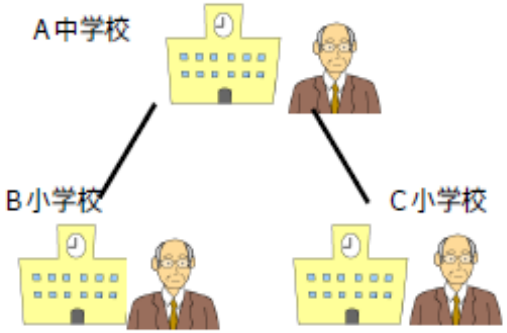
※４・３・２制、５・４制
などの区切りにすることも可能

校長１人

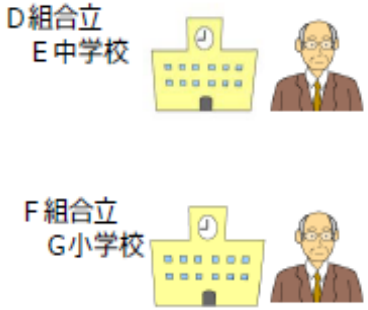
小中一貫型小学校・中学校

組織上、独立した小学校および中学校が一貫した教育を行う形態
→それぞれの学校に校長、教職員組織

②併設型小学校・中学校（同一の設置者）



③連携型小学校・中学校（異なる設置者）



資料３

３　小中一貫校と義務教育学校のちがい

	小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
修業年限	小学校６年　中学校３年	９年 （前期課程６年＋後期課程３年）
組　織	小・中それぞれに，校長，教職員組織 小学校と中学校における教育を一貫して施すためにふさわしい運営の仕組みを整えることが要件	１人の校長，１つの教職員組織
教育課程	９年間の教育目標の設定 ９年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成	
免　許	所属する学校の免許状があればよい	小・中両方の免許状を併有を原則
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型	
設置手続き	市町村教育委員会の規則等	市町村の条例
設置数	全国　２５３件（令和３年度） 長野県　１１件	全国　１４４校（令和３年度） 長野県　３校（信濃、美麻、根羽）

3　小中一貫校と義務教育学校

義務教育学校

信濃小中学校

美麻小中学校

義務教育学校 根羽学園

小中一貫型小学校・中学校

野沢温泉小学校・中学校

木島平小学校・中学校

鬼無里小学校・中学校

菅平小学校・中学校

佐久穂小学校・中学校

茅野市９小学校・４中学校

上諏訪小学校・中学校

両小野小学校・中学校

（　）は設置予定校

佐久穂小学校・中学校【小中一貫型小中学校】

令和２（2020）年度　佐久穂小・中学校グランドデザイン

学校教育目標

さらなる
創造への挑戦

【校訓：児童・生徒のあいことば】

自主	かしこく	自ら求め学び続ける子	「知」
晴明	あかるく	明るく晴れやかな心をもつ子	「徳」
壮健	たくましく	たくましく生きようとする子	「体」
敬愛	あたたかく	人を敬い、郷土を愛する子	「情」

重点目標
- ○子どもの「挑戦力」をのばす学習環境づくり
- ○地域との「絆」をより太くする具体的取組の蓄積

みんなで
友だちを
学校を
そして
ふるさと・未来を
つくっていこう

【地域の願い】
- ○子どもは町の未来
- ○小中一貫教育で、ゆとりや継続性のある教育を
- ○心豊かな子ども、地域を愛する子

重点

【活用期】
段階的に教科担任制を導入。これまでの学習や生活で身につけたことを活用し、学力の定着と論理的思考の育成を図る。

【発展期】これまでに身につけたことを発展させたり、生き方を考えたりすることを重視。自らの課題を見つけ解決する力を　育成し、個性や能力の伸長を図る。

【基礎充実期】 学級担任制を基盤に、繰り返し指導や補充指導を重視。学習規律や基礎的･基本的な知識･技能の定着を図る。

年長　1年　2年　3年　4年　5年　6年　7年　8年　9年

◇幼保小連携も含め、行事や交流活動を通して、上級生のお兄さんお姉さんに大事にされる経験を積みあげる。
自己肯定感や年長者へのあこがれの気持ちの醸成

◇5年から教科担任制を徐々に増やし、7年で完全に移行する。
◇中学校職員による教科指導や、中学生との交流を通して、自身の成長モデルを明確にする。
中1ギャップの解消
スムーズな中学校生活への移行

◇行事や交流活動を通して、小学生とふれあい、年長者としての自覚を高め、共に育つ。
年少者を
慈しむ気持ちや
自己有用感の醸成

佐久穂小学校　**佐久穂中学校**

9年間見通した指導カリキュラムで効果的・系統的指導
9年間の独自英語教育カリキュラムでELTとティームティーチング
キャリア教育につながるふるさと学習
児童･生徒理解を深め、一貫した生徒指導・進路指導・特別支援教育等を推進

※society5.0とは…AIやIoT、ロボット、ビッグデータなどの革新技術をあらゆる産業や社会に取り入れることによりする実現する新たな未来社会の姿

ソサエティ5.0の時代に向かって

自分の考えを、粋に、表現できる、児童・生徒を育成したい！
～これからの予測不可能な時代を生きるための、汎用性の高い思考力の育成への挑戦～

R2年度は、ICT教育（生活科）英語教育健康教育を窓口に

＜重点活動＞

1 あいさつ
- ○あいさつを交わして、仲間づくりの第一歩を
- ○あいさつのあふれる明るい学校づくり

2 交流
- ○学級・学年の仲間づくり（同年齢交流）
- ○保・小・中の交流（異年齢交流）
- ○ふるさと学習（地域交流）
- ○ゆめゆり（小諸養護学校分教室）との交流

3 歌声
- ○歌うことで心を一つにする仲間づくり
- ○歌声の響く温かな学校づくり

4 清掃
- ○学校を大事にする仲間づくり
- ○美しく、生活しやすい学校づくり

5 学び合い
- ○向学の気風ある仲間づくり・学校づくり
- ○読書活動・家庭学習の充実

6 健康な体づくり
- ○早寝早起き朝ごはん、歯みがき
- ○運動の生活化、体力づくり
- ○食育の充実

《教育活動を支える基盤》

◇子ども理解と個に応じた指導、自尊感情の育成
授業のUD化など個に応じたきめ細かな学習や生活指導・特別支援教育を充実させるため、ＴＴ・少人数学習・個別支援・人権教育や、関係機関との連携を進めていく

◇授業力向上
分かる・できる授業をめざして、「3観点」を子どもの立場でとらえ直し１単元・１時間の授業をデザインする。

◇地域連携
保護者・地域の方々と目的を共有し、共同の活動を充実させ、共に地域の子どもを育てる意識を醸成していく。

義務教育学校

信濃小中学校
（信濃町）

美麻小中学校
（大町市）

根羽学園
（根羽村）

義務教育学校の概要

義務教育学校は、「学校教育制度の多様化及び弾力化を推進するため、現行の小・中学校に加え、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う」学校である。

学年の区切り

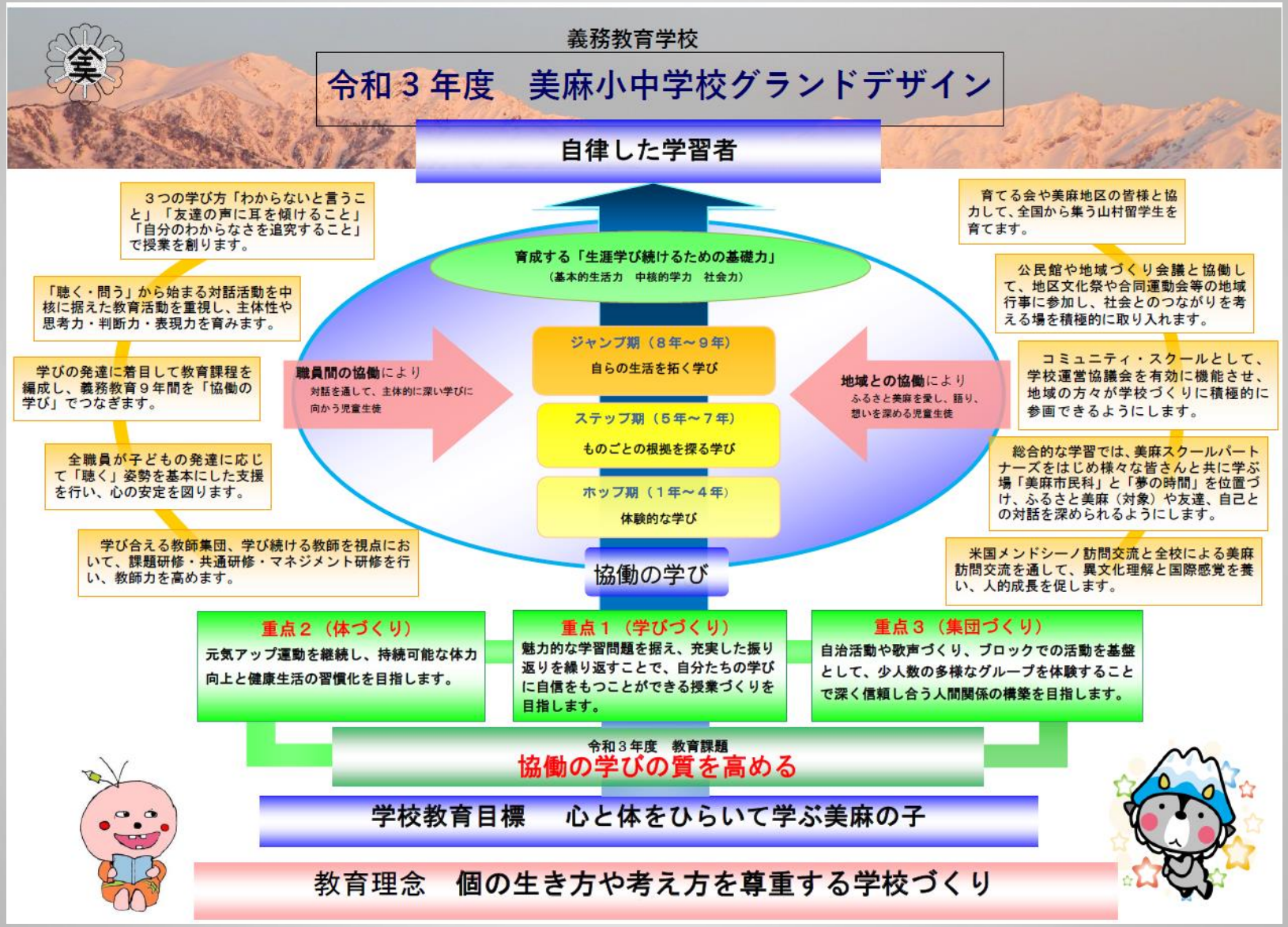
現行の「６・３制」の他にも、「４・３・２制」、「５・４制」等、地域の実情にあわせて設置者が区切ることも可能。

現行の小学校・中学校との違い

以下のような教育課程の特例の実施が可能になる。

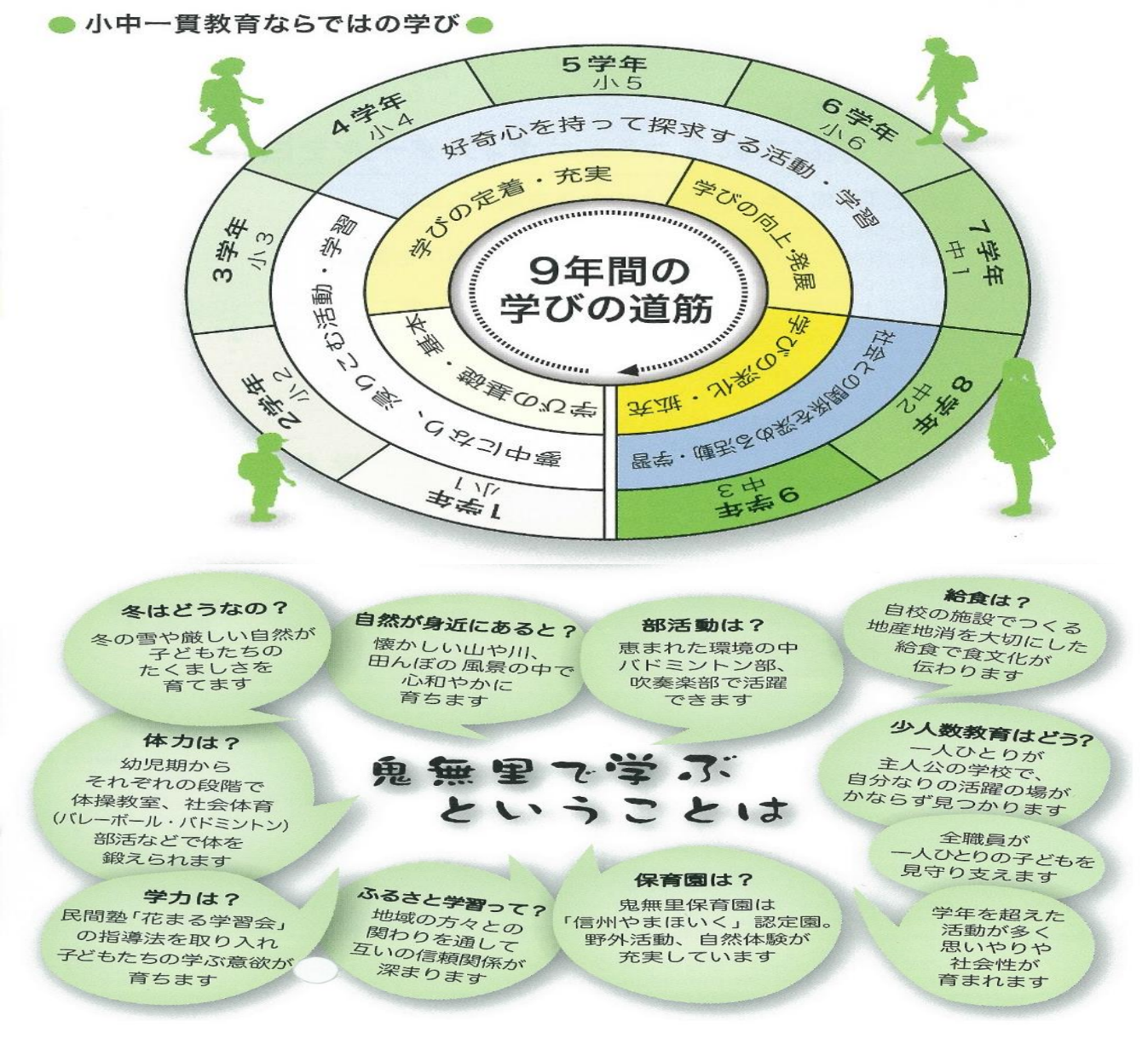
・指導内容の入れ替え・移行
　（中学校の学習内容を前倒しして学習する等）
・独自教科の設置（例：ふるさと科、英語科）

美麻小中学校【義務教育学校】



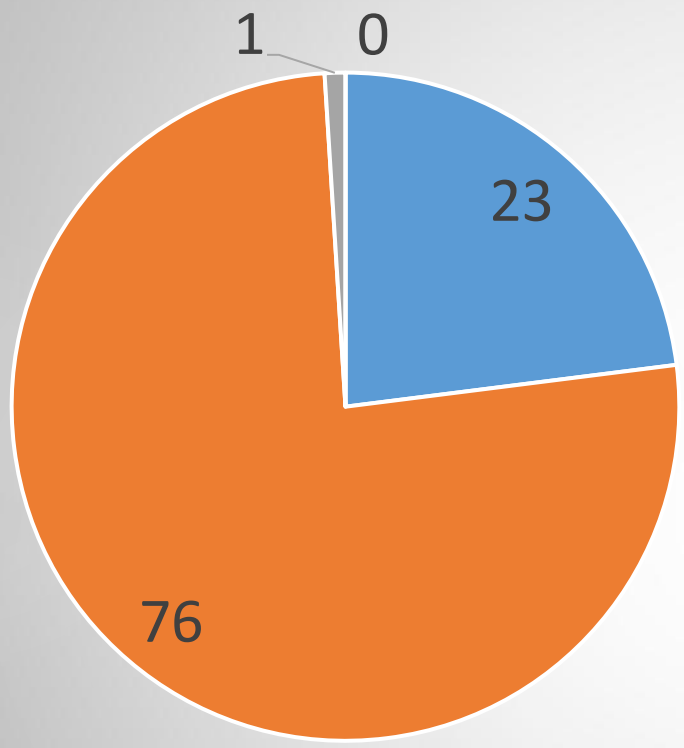
資料 6

鬼無里小学校・中学校【小中連携・小規模特認校】



小中一貫教育の成果

小中一貫教育の総合的な評価〔 成 果 〕



■大きな成果が認められる　■成果が認められる
□成果があまり認められない　■ほとんど成果が認められない

【学習指導】
- ○ 学習規律・生活規律の定着 92%
- ○ 学習習慣の定着 81%　…など

【生徒指導】
- ○ 中学進学への不安減少 96%
- ○ 上級生の「手本」意識向上 94%
- ○ 中１ギャップの緩和 93%　…など

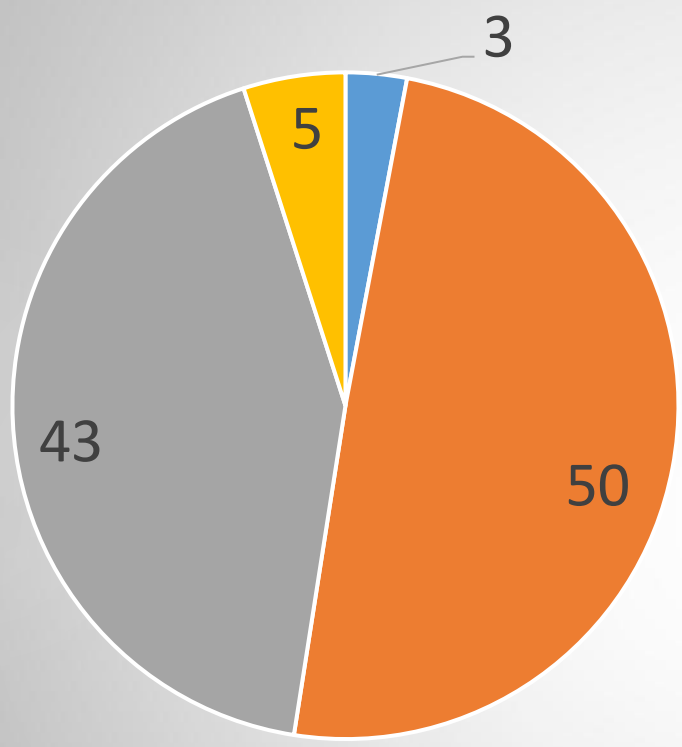
【教職員の協働】
- ○ 小中共通の取組の増加 98%
- ○ 教職員間の協力意識の向上 97%
- ○ 小中相互のよさの取り入れ 96% …など

【学校運営】
- ○ 地域との協働関係の強化 80%
- ○ 保護者の満足度の向上 76% …など

文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査」の結果（平成29年3月1日時点）」より抜粋

小中一貫教育の課題

小中一貫教育の総合的な評価〔 課 題 〕



大きな課題が認められる　課題が認められる
課題があまり認められない　ほとんど課題が認められない

【学習指導・生活指導】
- ○ 9年間の系統的な指導計画 43%
- ○ 交流活動の移動手段・時間 41%
- ○ 年間行事予定の調整・共通化 38%
- ○ 合同行事の内容設定 28%
- ○ 時間割，日課表の工夫 28%　…など

【教職員の負担】
- ○ 小中教職員の打合せ時間の確保 64%
- ○ 教職員の負担感・多忙感 64%
- ○ 小中合同の研修時間の確保 53%
- ○ 教職員間の負担の不均衡 49%　…など

文部科学省「小中一貫教育の導入状況調査」の結果（平成29年3月1日時点）」より抜粋

国の方向性

- 学校規模の適正化

○複式学級が存在する学校規模では，
・学校統合等により適正規模に近づける
・小規模校のメリットを最大限生かす
小規模校のデメリットの解決・緩和

- 小中一貫教育の制度化

○新しい時代にふさわしい学制改革の検討
○小中学校の統廃合に関する指針の見直し

- 学校段階間の接続

○同一中学校区間の小学校・中学校の連携
○９年間を通じ，必要な資質・能力を確実に育成

「幼稚園，学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）

長野県の方向性

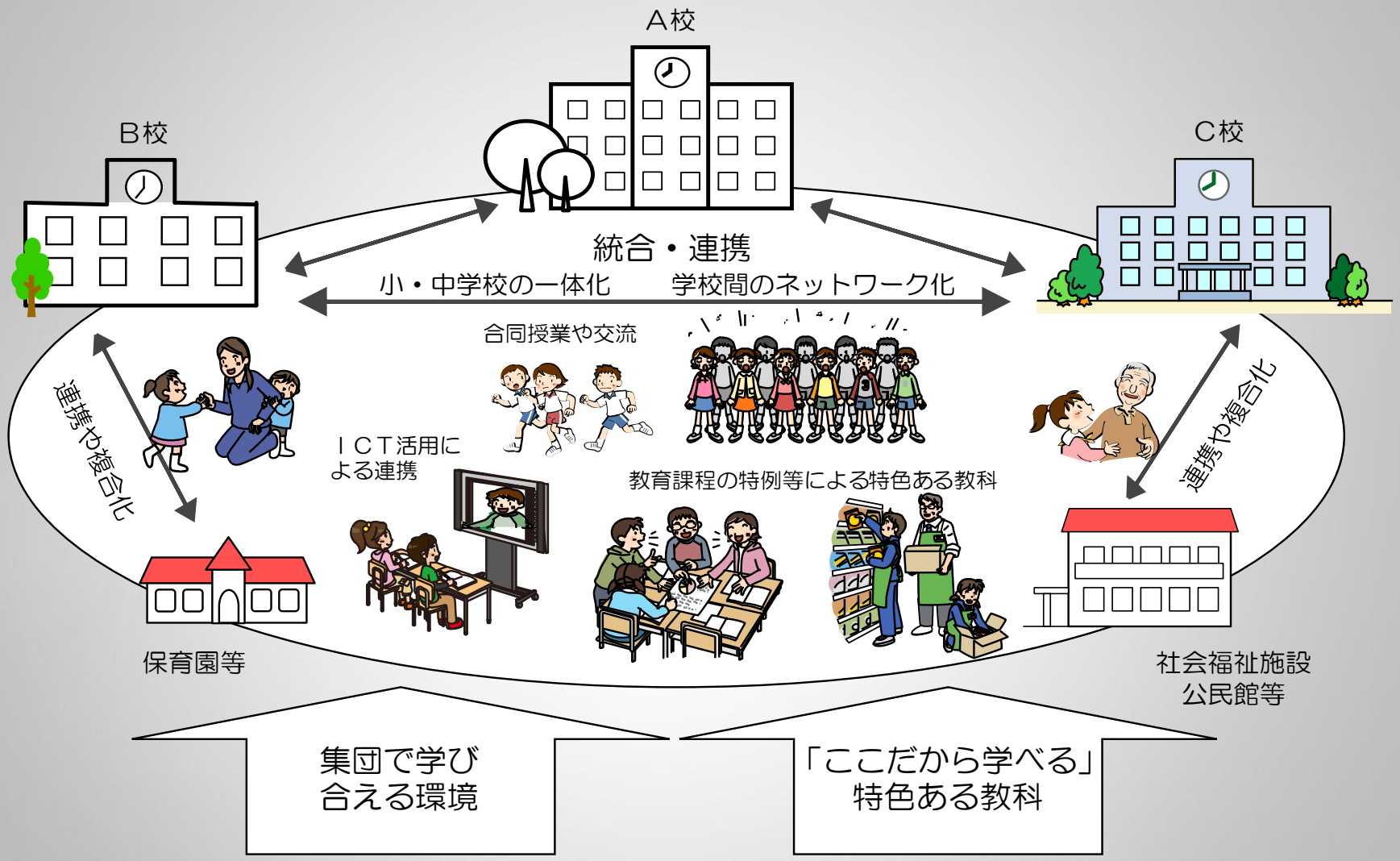
学校教育の新しいかたち　『地域発スクールモデル』

統合や連携による、
地域ごとに描かれた活力ある学校のかたち

① 集団で学び合える環境を実現
② 地域に根ざした魅力ある教育を推進

◇ 学校統合は方策の一つ
◇ 地理的な条件等で困難な場合には、
連携等による方策を検討

『地域発スクールモデル』


A校
B校
C校
統合・連携
小・中学校の一体化
学校間のネットワーク化
合同授業や交流
ＩＣＴ活用による連携
教育課程の特例等による特色ある教科
連携や複合化
連携や複合化
保育園等
社会福祉施設
公民館等
集団で学び
合える環境
「ここだから学べる」
特色ある教科

集団で学び合える環境

○ 学校間連携，合同授業　○ 異年齢交流

中川中生 ごみ拾って発信

「美しい村」実現へ 活動開始

量や種類を記録し 村民向けに発表も

中川村中川中学校の3年生5人のグループが、昨年5月から地元のごみ事情について調べてきた成果を、10月1日の文化祭で発表する。村はNPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟しているが、通学路や川にごみが目立つことに疑問を持って活動を開始。毎週のようにごみ拾いを続け、量や種類を記録してきた。問題を解決するには校外への発信が必要と考え、村内の商業施設が開く朝市でも発表する。

10月の文化祭に向けて発表の準備をする中川中の3年生5人

1年生からの総合的な学習の時間を使った活動。2年生に進級し取り上げるテーマを検討する際に、以前から生徒が関心を持っていた「日本で最も美しい村」が話題になった。話し合いを進める中で、「村内にごみが落ちている。『美しい村』にあっていいことなのか」と疑問が持ち上がった。

村内の投棄ごみをテーマにすると決めて下調べを重ね、今年の初めには大草城址公園と天竜川の岸辺でごみ拾いを開始。天候などによって多い時は週1回のペースで30分ほど拾う。大きなごみ袋が三つほどになることもある。ごみはペットボトルやサンダル、たばこの吸い殻の他、バスケットボールやテニスボールも。想像以上の量に加え、まだ使える物があることに驚いた。分別や洗浄、計量、記録した後に、校内のごみステーションに持ち込む。

現在、文化祭での発表に向け、落ちていたごみを撮った写真のスライドなどを準備中。リーダーの富永恭平さん(15)は「見やすく、分かりやすく、見聞きする人が納得するものを作りたい」と意気込む。今後、活動の様子を動画で撮影するアイデアもある。

9月26日と10月31日に同村片桐のショッピングセンター「チャオ」で開く農産物などの朝市「つばめマーケット」でも活動について展示し、来場者に伝える計画だ。「村民に現状を知ってもらい、捨てる人がいなくなるのが目標」と富永さん。総合的な学習を担当する根石準也教諭(43)は「活動を通じて村を知り、大人になってからも村のために何かしたいと思ってもらえたらうれしい」と期待している。

「ここ」だから学べる特色ある授業

○中川村の特色，伝統，魅力，ビジョン

・「日本で最も美しい村」連合

学校形態によるメリット・デメリット

R9	1 学年	2	3	4	5	6	合計	R3 現在
南向	11	16	12	22	14	13	88	118(東小)
片桐	15	23	12	25	26	20	121	141(西小)
合計	26	39	24	47	40	33	209	259
平均	13	19.5	12	23.5	20	16.5	--	--

小学校年代の児童数見込み（学級比較）　　令和 9 年度

①小中 3 校のまま＜小中の仕組みも現在のまま＞

小学校を統合する

小学校を
統合しない

ゴシック：児童生徒関連　　明朝：その他

メリット
・学級の児童数が少人数へと進むことによるメリット
　一人一人の活躍の場，小集団による安心感、担任との関係　など
・南向，片桐両地区に 1 校ずつの小学校が存続する

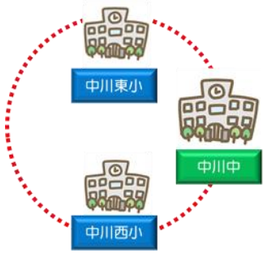
デメリット
・学級や学校の児童数が少人数であることの影響
　グループ活動や集団活動の制約，特徴的な児童による影響が大，男女比　など
・教員数の制約により教科担任制など多様な指導形態がとりづらい
・教員数が最少であることによる影響
　学年会や教科会が成立しない，校務分掌などの負担が大きい　など

②小学校を 1 校に統合＜小中の仕組みは現在のまま＞

メリット
・児童数増により学年複数学級が期待できる
　クラス替えにより学級集団の固定化を避ける，他学級を意識しての切磋琢磨　など
　より小集団になることも予想されるが状況に応じて学年集団で対応
　小集団となった場合は少人数によるメリットがある
・単級規模の学年も，村費講師を任用できれば複数学級にすることが可能
・それぞれの小学校で行ってきた特徴的な活動に，すべての児童が参加しやすくなる
・教員が 1 校に集約されるので，効果的な配置や負担の軽減などが期待できる

デメリット
・学習環境や生活環境が変化することへの懸念
　学校の場所，通学距離（スクールバス通学児童増もありうる），経路　等
・南向，片桐両地区に 1 校ずつだった小学校の配置がなくなる

③小中 3 校のまま＜分離型の小中一貫教育を行う＞

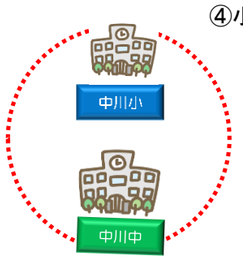


メリット（①のメリットに加えて）
・小中一貫教育の制度の活用により、特徴的な教育の位置づけや小中交流の推進が期待できる
　小中交流が増加することによる中 1 ギャップの緩和や不登校の減少
　6-3 制とは異なる 4-3-2 制や 5-4 制などの学年区分の導入による発達段階に応じた指導
　独自の教育課程の導入により，系統的・継続的な学習による学習効果の高まり
　中学校教員による教科担任制の実施
　より大きな年齢差を伴う異学年交流による精神的な発達
　長いスパンで教員から見てもらえることによるよさ
・小中の教員がそれぞれのよさを学び合い吸収し合うことが期待できる
　⇒　学校が離れていることから、実際に小中一貫教育のよさを生かせるか疑問が残る

デメリット（①のデメリットに加えて）
・独自に特徴的な教育課程を編成している場合は、転出入についてより配慮が必要となる
・学校の枠組みが変更されないまま，小中一貫教育へ移行し特徴的な教育や交流等を離れた学校同士で進めていくことは，大きな負担になると懸念される

小中学校を
統合する

④小学校を 1 校に統合＜小中のまま小中一貫教育を行う（隣接型・分離型）＞



メリット（②のメリットに加えて）
・小中一貫教育の制度の活用により，特徴的な教育の位置づけや小中交流の推進が期待できる
　小中交流が増加することによる中 1 ギャップの緩和や不登校の減少　　6-3 制とは異なる 4-3-2 制や 5-4 制などの学年区分の導入による発達段階に応じた指導　　独自の教育課程の導入により，系統的・継続的な学習による学習効果の高まり　中学校教員による教科担任制の実施　　より大きな年齢差を伴う異学年交流による精神的な発達　　長いスパンで教職員から見てもらえることによるよさ　など
・小中の教員がそれぞれのよさを学び合い吸収し合うことが期待できる
　⇒　分離型の場合：負担が大きく，③と同様に十分生かせるか疑問が残る
　⇒　隣接型の場合：行き来がしやすく，小中一貫教育のよさを生かしやすい

デメリット（②のデメリットに加えて）
・小中の連携が深まって小中の境目が薄れることによるデメリットも考えられる
　小学校卒業の達成感が薄れる，中学校の目新しさが失われる，小学校高学年のリーダーシップや自主性が養われにくい　など
・独自に特徴的な教育課程を編成している場合は，転出入についてより配慮が必要となる
・学校の枠組みが変更されないまま，小中一貫教育へ移行し特徴的な教育や交流等にかかる負担が懸念される
　⇒　分離型の場合：小中の境目についての懸念は少ない
　⇒　隣接型の場合：施設面での共有に関する検討や中学生から小学生への悪影響も考慮する必要がある

⑤小中を 1 校に統合＜義務教育学校として小中一貫教育を行う＞

メリット
・制度の活用により特徴的な教育や交流の深まりが期待できる（1 つの学校となるため，④のメリットに比してより期待できる）
　加えて，生徒会と児童会のつながりや前期課程（小学校に当たる課程）中からの部活動のイメージ化など，児童生徒のつながりの面で，異年齢の交流による多様な人間関係の経験ができるなどのメリットが期待できる
・小中の教員が一つの学校にまとまるので，多くの教員同士でそれぞれのよさを学び合い吸収し合うことができる
・日常的に 1～9 年生の全児童生徒について話題にし，見守ることができる
　⇒　施設分離型の場合：児童生徒のつながり面では弱まる可能性がある

デメリット
・1 つの学校となって小中の境目が薄れることによるデメリットは，④に比してより大きいと考えられる
　前期課程修了と小学校卒業では異なり達成感が薄れる，後期課程（中学校に当たる課程）の目新しさが失われる，前期課程高学年のリーダーシップや自主性が養われにくい　など
・学校規模が従前より大きくなるため，諸会議など多くなることが懸念される
・当面の間は小中どちらかの免許でもよいが，原則として両方の免許保持が必要である
・9 年間という長いスパンでの教育に対する意識を持つことの困難さが予想される

教職員数のシミュレーション

〇小中一貫教育校になった場合の教育数シミュレーション（令和3年度児童生徒数に基づいた算定）

中川東小学校		
通常の学級	6学級	6人
特別支援学級	3学級	3人
専科		1人
養護教諭		1人
事務職員		1人
県費教諭		12人

※通常学級 1学級35人

※特支学級 1学級 8人

中川西小学校		
通常の学級	6学級	6人
特別支援学級	2学級	2人
専科		1人
養護教諭		1人
事務職員		1人
県費教諭		11人

合計 23人

中川中学校		
通常の学級	6学級	6人
特別支援学級	2学級	2人
専科		5人
養護教諭		1人
栄養教諭		1人
事務職員		1人
県費教諭		16人

合計 16人

義務教育学校（隣接型小中一貫校）

東西小学校を統合して1校に

前期課程（小学校）		
通常の学級	10学級	10人
特別支援学級	3学級	3人
専科		1人
養護教諭		1人
事務職員		1人
県費教諭		16人

・統合して1校にした場合減になる数

	2校	1校
通常学級	12学級	10学級
特別支援	5学級	3学級

合計 32人

後期課程（中学）		
通常の学級	6学級	6人
特別支援学級	2学級	2人
専科		5人
養護教諭		1人
栄養教諭		1人
事務職員		1人
県費教諭		16人

■義務教育学校の算定

・前期課程は小学校、後期課程は中学校に準じた教育を行い、定数・加配はそれぞれ小・中1校の算定となる。
・副校長・教頭を総括担当として1人分加算される。
・開校準備期間に1名加配あり。

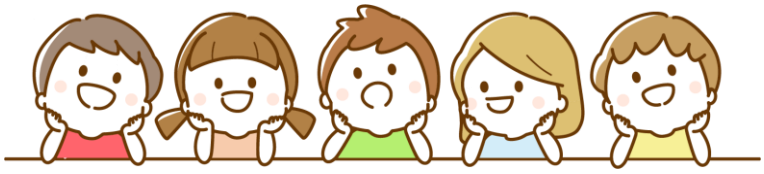
■隣接型小中一貫校の算定

・小学校1校・中学校1校で定数・加配は算定する。よって、教諭配置数は義務教育学校と同じとなる。
・管理職は小・中それぞれに校長、教頭1人ずつ。

■村費教職員現配置（3校合計）

・小学校（2校合計）	
特別支援教育支援員	8人
図書館司書	2人
用務員	2人
・中学校	
講師（教科）	1人
英語指導員	1人
特支・不登校支援員	1人
図書館司書	1人
用務員	1人
（ICT支援員	1人）

小・中学校のあり方に関するアンケート



中川村の小・中学校のこれからについてご意見をお聞かせください

中川村では、今後の小・中学校のあり方について検討を進めています。人口減少・少子化が進む中、中川村の子ども達にとって、より良い教育環境をつくっていくためにはどんなことに力を入れて、どのような学校をつくっていくべきなのか、皆様のお考え・ご意見等を伺うために、アンケートをお願いすることといたしました。

本調査は、中川村にお住まいの 20 歳以上（令和４年 10 月時点）、1,000 人の皆様に、ご協力をお願いしております。お忙しいところ誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

令和４年 10 月　中川村保育園、小・中学校あり方検討委員会

＜ご記入にあたってのお願い＞

- 調査票が配達された方は「宛名のご本人」がお答えください。（代筆でも結構です。）
  調査票が小・中学校・保育園から配られた方は、子どもの保護者がお答えください。
- 本調査は無記名で、結果は統計的に処理しますので、個人が特定される、または個人に関する情報が公表されることはありません。率直なご意見をお書きください。
- 回答はインターネットで受け付けています（インターネットで回答した場合は、本アンケート用紙の返送は不要です）。
  インターネットによる回答は、右の二次元コードからアクセスし、「回答する」をクリック後、以下のネット回答用番号を入力してください。
  ネット回答用番号　【　　】※個人を特定するものではありません
- 本アンケート用紙で回答する場合は、同封の返信用封筒に入れて、ポストにご投函ください（切手不要）。

https://questant.jp/q/nakagawa_school

◆回答期限：11 月６日（日）まで

【お問い合わせ先】
中川村保育園、小・中学校あり方検討委員会

事務局
中川村教育委員会　総務学校係
電話：０２６５－８８－１００５
Ｅメール：school@vill.nagano-nakagawa.lg.jp

Ⅰ：あなたのことについてお聞きします

問１　あなたの性別をお答えください（１つに○）

１．男性	２．女性	３．その他・答えたくない

問２　あなたの年齢をお答えください（１つに○）

１．20～24歳	２．25～29歳	３．30～34歳	４．35～39歳
５．40～44歳	６．45～49歳	７．50～54歳	８．55～59歳
９．60～64歳	10．65～69歳	11．70～74歳	12．75歳以上

問３　お住まいの地区はどちらですか（１つに○）

１．飯沼	２．美里	３．北組	４．下平	５．八幡平
６．中組	７．沖町	８．三共	９．南陽	10．桑原
11．葛北	12．柏原	13．渡場	14．柳沢	15．横前
16．針ヶ平	17．小平	18．竹ノ上	19．小和田	20．中央
21．中通	22．上前沢	23．田島	24．中田島	25．南田島
26．牧ヶ原	27．南原			

問４　あなたはどこの・どのくらいの規模の小学校に通いましたか（１つに○）

【どこの】

１．中川村内	２．国内（　　都道府県　　市区町村）※中川村内は除く	３．海外

【どのくらいの規模の】

１．１学年１クラス以下	２．１学年２～３クラス	３．１学年４クラス以上
４．その他（　　）		

問５　あなたはどこの・どのくらいの規模の中学校に通いましたか（１つに○）

【どこの】

１．中川村内	２．国内（　　都道府県　　市区町村）※中川村内は除く	３．海外

【どのくらいの規模の】

１．１学年１クラス以下	２．１学年２～３クラス	３．１学年４～６クラス
４．１学年７クラス以上	５．その他（　　）	

問６　あなたには、今、子どもがいますか（あてはまるものすべてに○）

１．就園前の子どもがいる	２．保育園児がいる	３．小学生がいる
４．中学生がいる	５．高校生以上の子どもがいる	６．子どもはいない

Ⅱ：中川村が目指すべき教育の方向性についてお聞きします

※以下の設問は、同封の「資料Ⅰ．中川村の小・中学校の現状」をみてからご回答ください

問７　あなたは「中川村の教育環境の強み・課題」に対応して、どのような施策が重要だと思いますか。重要だと思うことを 1～３番目まで選び、回答欄に A～K のいずれかをご記入ください

児童・生徒の特長

学校内の様子

学校と地域とのつながり

学校外の様子

A.興味のあることを自ら見つけ、探究し、発表する学習の充実

B.友達と話し合う活動の充実

C.グループ学習など、新しい自分の役割を発見できる機会の充実

D.近隣自治体と連携した、学校間の交流の機会の充実

E.地域や近隣自治体と連携した、部活動の選択肢・規模の確保

F.保護者や地域の人が講師として学校教育に関わる機会を増やす

G.保護者や地域の人が学校運営に関わる機会を増やす（コミュニティスクール）

H.保護者や地域の人と連携した、小学生の放課後の居場所の充実

I.休みの日に、児童・生徒が参加できる社会教育の講座・教室を、
地域や近隣自治体と連携して増やす

J.地域行事を複数地域の合同開催にする等の改善を進め、体験の場を維持する

K.その他
（具体的に考えをご記入下さい　　）

【回答欄】

１番目	２番目	３番目

Ⅲ：中川村が目指すべき教育環境の方向性についてお聞きします

※以下の設問は、同封の「資料２．教育環境の方向性」をみてからご回答ください

問８　以下の項目は、方向性によって特に内容が変わるポイントを抜き出したものです。あなたは、中川村の未来の子ども達にとって、どちらの方向性の教育環境が望ましいと思いますか（①～③それぞれ１つに○）

	方向性１：統合（小中一貫教育）	統合	統合どちらかというと	維持どちらかというと	維持	方向性２：維持（２小・１中）
①	９年間の一体的カリキュラム	１	２	３	４	学校ごと/合同授業の組み合わせ
②	学年規模拡大と異学年交流の充実	１	２	３	４	小学校間交流、小・中の情報連携の充実
③	村全体の教育資源を活用	１	２	３	４	学校ごとのつながりを活用

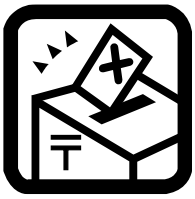
問９　あなたは、中川村の未来の子ども達のために、どのような教育環境を整備すべきと思いますか。あなたの考えに最も近い方向性を１つ選んでください

１．方向性１：統合（小中一貫教育）

２．方向性２：維持（２小・１中）

３．その他の方向性
（具体的に考えをご記入ください：　　）

問 10　前問で選んだ方向性に関して、教育環境をより良くするためのアイデア等があれば教えてください



以上でアンケートは終了となります。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。
ご記入が終わりましたら同封の封筒(切手不要)にお入れいただき、
11 月６日（日）までにご投函ください。

資料１．中川村の小・中学校の現状 ※問７を回答する前にご一読ください

①小・中学校のあり方を検討する上での時間軸

・**小・中学校の施設は大規模改修・建て替えの時期を迎えている**
・中川村では、大規模改修・建て替えを行った後は、
約30年間はその施設を使い続けることを原則としている
→**このことを意識して、小・中学校のあり方を考える必要がある**

図表1　小中学校の建て替え等からの経過年数

施設名	建て替え	大規模改修	経過年数
中川東小学校	1983 (S58)	-	39年
中川西小学校	1982 (S57)	-	40年
中川中学校 管理棟	1974 (S49)	1996 (H7)	48 (26) 年
教室等	1975 (S50)	1997 (H8)	47 (25) 年

②児童数の推計

・約30年後である、2055年の児童数・生徒数をみると、１学年は20人台前半の規模となることが予想される
・小学校を統合する場合、**統合直後はクラス替えができる学年があるものの、だんだん少なくなっていくと考えられる**

図表2　児童数・生徒数の推計

		2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)	2055 (R37)
小学校児童数	１年生	34	30	28	26	23	21
	２年生	35	31	28	26	23	21
	３年生	36	32	29	27	24	22
	４年生	36	33	29	27	25	22
	５年生	37	33	30	27	25	22
	６年生	38	34	30	28	26	23
中学校生徒数	１年生	38	35	31	28	26	23
	２年生	39	36	32	29	27	24
	３年生	39	36	33	29	27	25

2020年の国勢調査をもとに、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計に準拠して独自に算出
赤字はクラス替えができる学年（長野県基準では、35人を超えると2クラスになる）

③中川村の教育環境の強み・課題

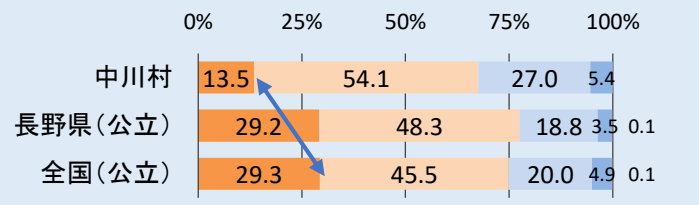
教員・保護者・地区総代ヒアリングと全国学力・学習状況調査の結果を合わせてみると、中川村の教育環境には次の特徴があると考えられる
・**「主体性・自己肯定感が低い」、「切磋琢磨しにくい」という課題**がある
・**「地域を教材にする学習がしやすい」、「児童・生徒が参加する地域行事が多くある」という強み**がある
→**課題を克服したり、強みを伸ばしたりすることで、教育環境を良くしていくことが求められる**

図表3　教員・保護者・地区総代ヒアリングで得られた代表的な意見

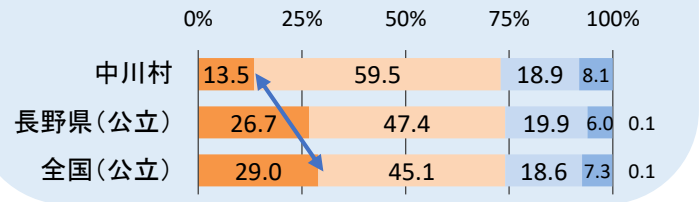
視点	強み	課題
1)児童・生徒の特長	**素直で良い子が育つ** ・明るい、優しい、純朴等	**主体性・自己肯定感が低い** ・積極性に欠ける、打たれ弱い等
2)学校内の様子	**安定した人間関係がある** ・お互いを良く知っている ・仲が良い	**人間関係が狭く固定化しがち** ・つまづくと逃げ場がない、不登校の子もいる ・友人が限られる
	少人数で丁寧な指導 ・先生が、児童・生徒１人ひとりのことを良く知っている ・落ちこぼれる子は少ない	**切磋琢磨しにくい** ・競い合う気持ちが少ない ・井の中の蛙になりやすい（広い視野を持ちにくい、小さくまとまりやすい）
		クラブ・部活動が思うようにできない ・選択肢が少ない ・人数が足りず大会に出られないこともある
3)学校と地域とのつながり	**地域を教材にする学習がしやすい** ・教材になる豊かな環境がある ・児童・生徒が地域に対する愛着や問題意識をもっている	**強みを活かしきれていない** ・もっと環境を上手に使うことができる ・もっと協力してくれそうな人がいる
	保護者・地域が学校によく協力している ・保護者がよく学校に行き、なじんでいる ・地域との結びつきが強い	
4)学校外の様子	**児童・生徒が地域に大切にされている** ・挨拶や交流などの関わりがある	**小学生の放課後の選択肢が少ない** ・外にいるより家にいることが多い
	児童・生徒が参加する地域行事が多くある	**少子化で地域行事が継続しづらい**
		高1ショックがあることも ・村外の子と打ち解けにくい

図表4　全国学力・学習状況調査の結果（特徴的なものを抜粋）

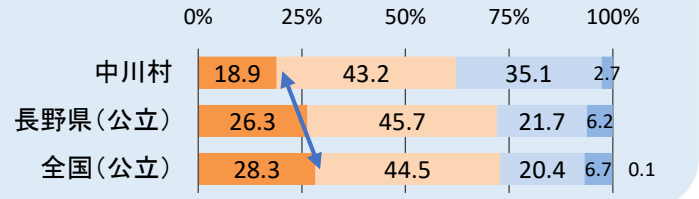
【主体性】 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか（中3）



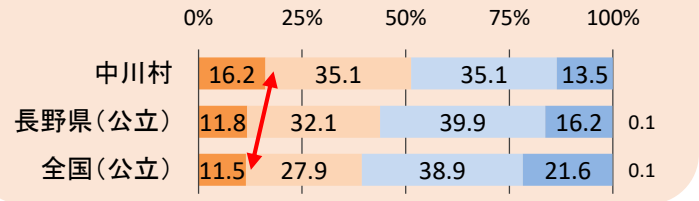
【自己肯定感】 自分にはよいところがあると思いますか（中3）



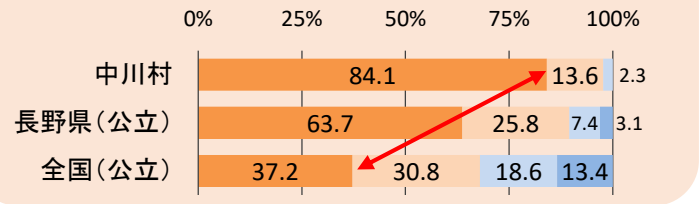
【切磋琢磨】 友だちと話し合う活動から、自分の考えを深めたり広げたりできていると思いますか（中3）



【地域学習】 地域や社会をよくするために何をなすべきかを考えることがありますか（中3）



【地域行事】 住んでいる地域の行事に参加していますか（小6）



出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査」（令和元年度）

資料２．教育環境の方向性 ※問８を回答する前にご一読ください

①方向性別の教育のポイント

・小・中学校のあり方検討委員会では、中川村における教育環境の方向性を検討しやすくするために、その方向性を以下の２つに整理し、前ページの強みを伸ばし、課題を克服するポイントをまとめている

	方向性1：統合（小中一貫教育）		方向性2：維持（2小・1中）
1)児童・生徒の特長	ポイント① 小・中の**９年間を一体的に捉えた独自カリキュラム**をつくり、成長に合わせて主体的な学びを推進	⟷	**学校ごとの授業と合同の授業を組み合わせ**ながら、主体的な学びを推進
2)学校内の様子	ポイント② **同学年の規模拡大と異学年交流の充実**	⟷	**オンライン授業等で学校間交流を充実** 小・中の情報連携の強化（中1ギャップ対策等）
	（共通）部活動は、**地域や近隣自治体と連携して選択肢や規模を充実**		
3)学校と地域とのつながり	ポイント③ 統合することにより **村全体の教育資源（ヒト・モノ・コト）を活用**	⟷	維持することにより **これまで培われてきた学校と地域のつながりを活用**
4)学校外の様子	（共通）地域と連携して**小学生の放課後の居場所や休日の体験等の場を充実**		
	（共通）少子化の状況に合わせて、**地域行事を合同開催にする等の改善を推進**		

②方向性別の学校施設のイメージとその核となる考え方

・中川村の未来の子ども達にとって、どちらの方向性が良いかを考えるために、学校施設のイメージを整理した
・２つの方向性は核となる考え方が異なるため、**それぞれの良さをすべて同時に満たすことはできないことに注意が必要**（選択する必要がある）

	方向性1：統合（小中一貫教育）	方向性2：維持（2小・1中）
学校施設のイメージ	 中川小中学校 学校施設：**一体化** 教育活動：**一体化**	 東小 中川中 西小 学校施設：**分散** 教育活動：**連携**
核となる考え方	・統合することを活かし、**同学年の規模拡大と異学年交流の充実**により、**多様な人間関係をつくる**	・**教員１人あたりの児童・生徒が少なくなる**ことを活かし、これまで以上に**きめ細かい指導を推進**する

両立は難しい

令和４年度

中川村小・中学校のあり方に関するアンケート調査

報告書

令和４年１月

目　　次

１．調査の概要……1
（１）調査目的……1
（２）実施状況……1

２．調査の結果……2
（１）回答者の属性……2
（２）回答者の小・中学校時代の状況……3
（３）重要視する教育施策……4
（４）統合／維持の方向性……6

３．結果のまとめ……7
（１）「統合（小中一貫教育）」の方向性が約３分の２の支持を得た……7
（２）主体性・自己肯定感が低いといった問題意識を持つ住民が多い……7
（３）自由記述では、今後に向けて活用できる様々な視点が提示された……7

１．調査の概要

（１）調査目的

中川村では、人口減少・少子化が進む中、村内の子どもにとっての教育環境を維持・向上させるために、将来的な小・中学校のあり方について検討している。

本調査は、この検討に住民の意見・考え方を反映させ、多くの住民の納得の得られる方向で今後のあり方を設計するために、主に以下の点についての住民の意見・考え方を把握した。

①村内の小・中学校における教育施策について、今後どのようなものを重要と捉えているか
②直近の大きな検討点となっている「小・中学校の統合（小中一貫教育）または維持（小学校２校・中学校１校）」について、どのような考えをもっているか

（２）実施状況

本調査の実施状況は以下のとおりである。なお調査にあたっては、中川村の小・中学校のあり方としてのこれまでの検討内容の概要を資料として調査票に同封し、資料を閲覧したうえでの回答を依頼した。

■対　　象：村内在住者 1,000 名
＞内訳は以下のとおり
・小・中学校の児童生徒の保護者及び
乳児から就学前の幼児の保護者全数……330 名
・無作為抽出した住民……670 名
■実施方法：郵送による配布、郵送またはインターネットによる回答の回収
■実施期間：令和 4 年 10 月 14 日（金）発送
令和 4 年 11 月 6 日（日）までの回答を依頼
（回答期限終了後 11 月 14 日（月）までの回答分を回収に含めた）
■回収状況：503 票（回収率 50.3%）
＞内訳は以下のとおり
・郵送回収……326 票
・インターネット回収……177 票

次ページより調査結果を示す。なお設問によっては無回答があるため、設問ごとの回答数総数（n）は回収票数と一致しない場合がある。また図表等では小数点第 2 位を四捨五入しているため、百分率の合計の数値が 100%にならない場合がある。

また、特別に「複数回答」と記載のある設問以外はすべて単数回答（選択肢のうち当てはまるものをひとつだけ選ぶ）である。

２．調査の結果

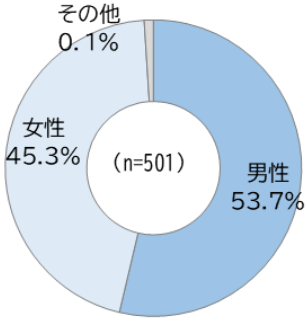
（１）回答者の属性

・性別は男性 53.7%、女性 45.3%で、概ね半数ずつの割合である。

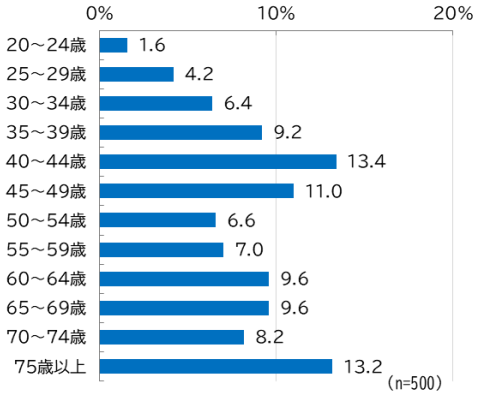
・年齢は 40～44 歳が 13.4%と最も割合が高く、この世代の前後が比較的多い。概ね小・中学校また 75 歳以上の回答者が 13.2%と比較的高い割合を占める。

・子どもの有無では、「子どもはいない」との回答が 25.9%である（74.1%は子どもがいる）。このうち中学生以下の子どものいる回答者は 42.1%となっている。

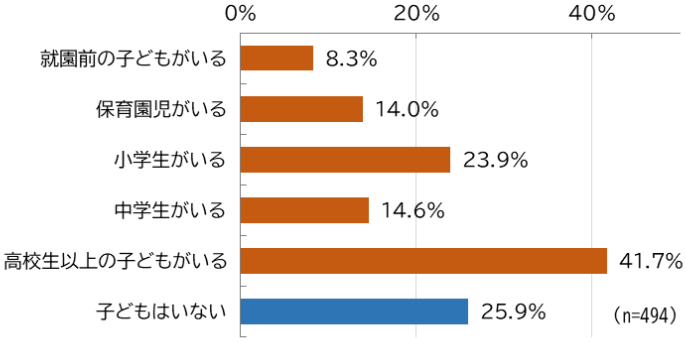
■性別



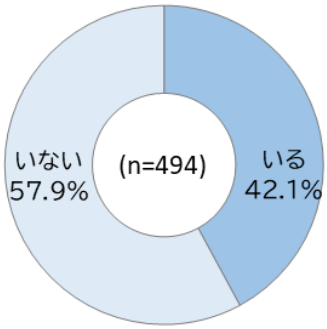
■年齢



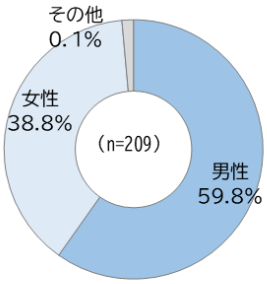
■子どもの有無（複数回答）

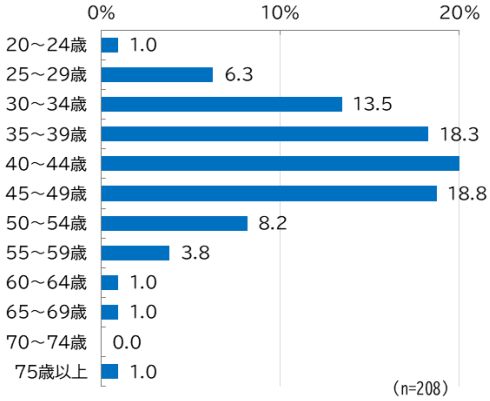


■中学生以下の子どもの有無



＜参考：中学生以下の子どものいる回答者の性別・年齢＞





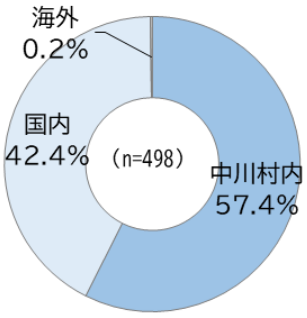
（2）回答者の小・中学校時代の状況

・回答者のうち、村内の小学校に通っていた割合は 57.4%、村内の中学校に通っていた割合は 56.9%である。

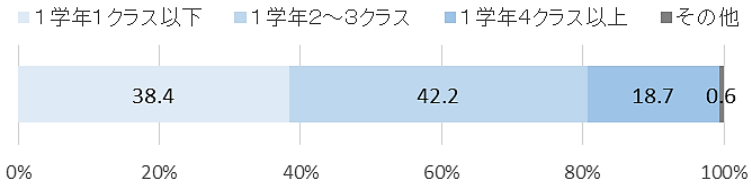
・通っていた小学校の規模では、学年 2 クラス以上だった割合は 60.9%（2～3 クラス 42.2%、4 クラス以上 18.7%）である。現在の村内の小学校（中川東小学校、中川西小学校）はそれぞれ学年 1 クラスで、この状況と同じかそれ以下（学年 1 クラス以下）であった回答者は 38.4%である。

・通っていた中学校の規模では、学年 2～3 クラスが 61.8%と過半数を占める。現在の中川村中学校（学年 2 クラス）とほぼ同じ規模にあたる。

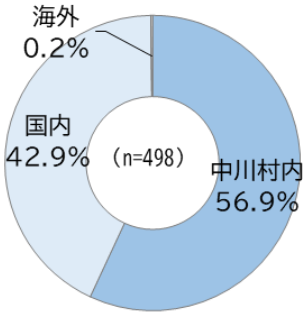
■通っていた小学校の場所



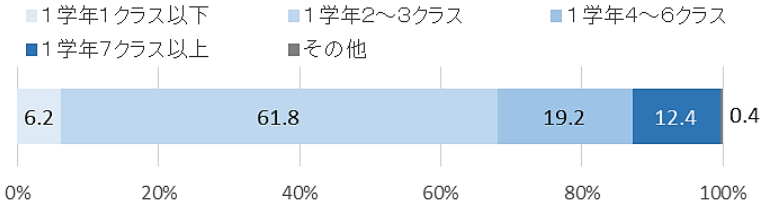
■通っていた小学校の規模



■通っていた中学校の場所

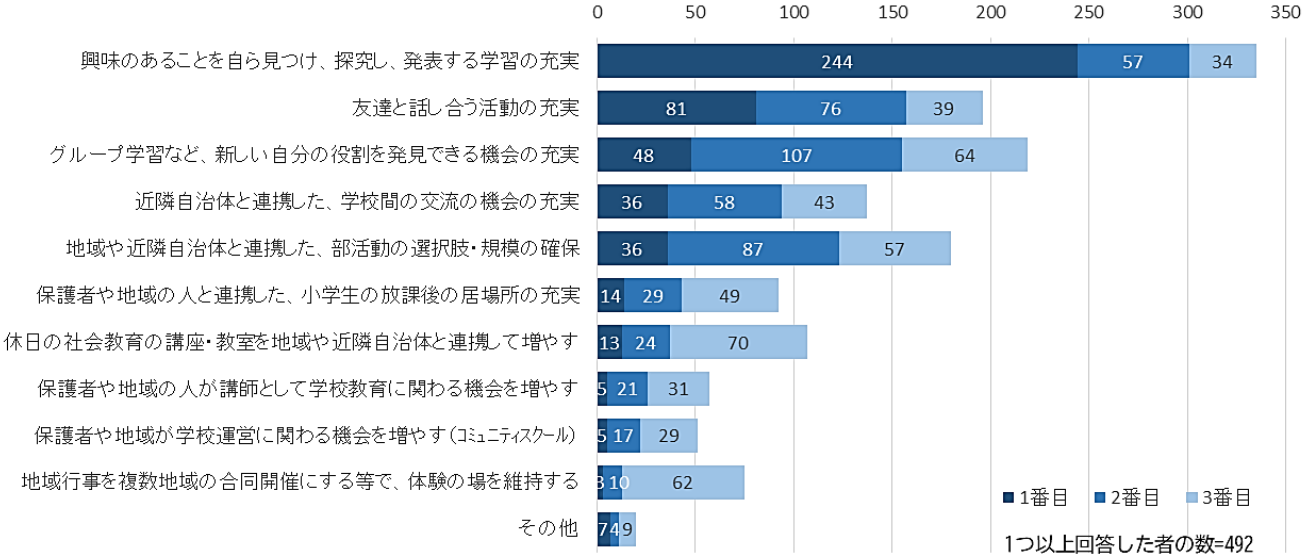


■通っていた中学校の規模

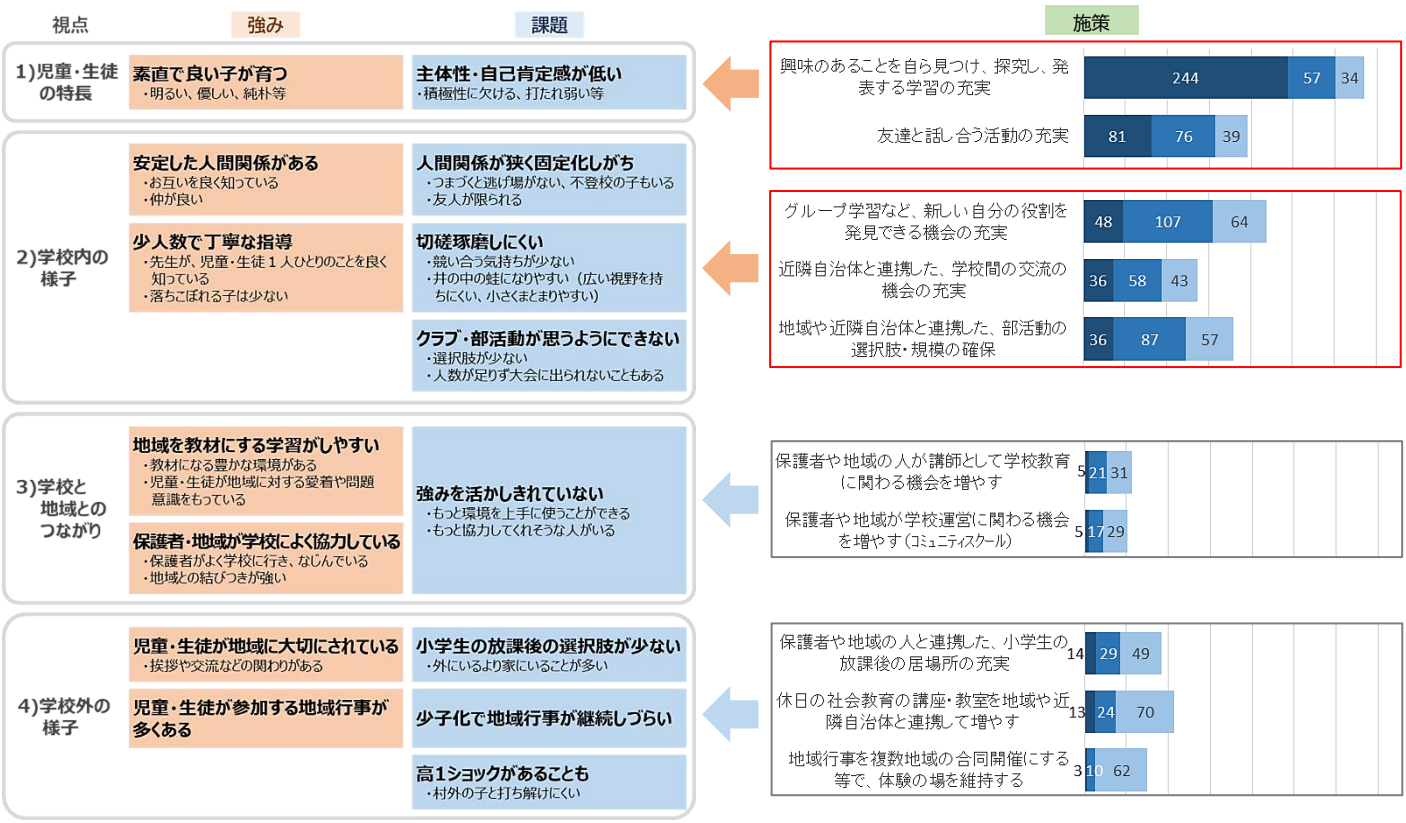


（3）重要視する教育施策

・今後の教育施策を 1～10 およびその他として提示し、重要だと思う順に最大 3 つまで選択してもらったところ、1 番目（最も重要な施策）にあげられたものとしては、「興味あることを自ら見つけ、探求し、発表する学習の充実」が最も多かった（244）。次いで多かったのは、「友達と話し合う活動の充実」であった（81）。

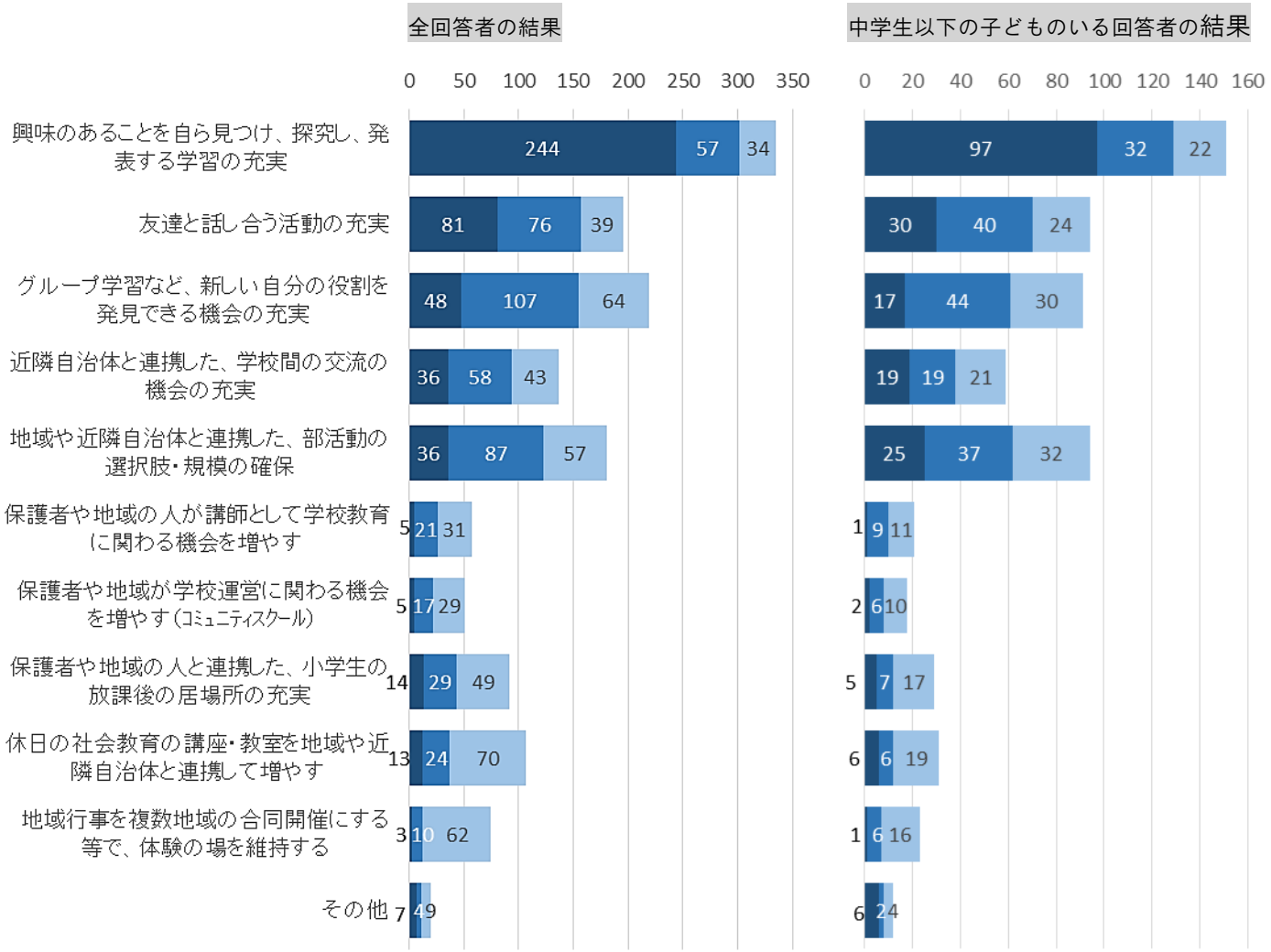


・本設問は「中川村の小・中学校の現状」の資料を閲覧したうえで回答を求めた。同資料では整理した 4 つの「視点」ごとに対応する施策をみると、素直で良い子が育つ一方で主体性・自己肯定感が低いという「児童・生徒の特長」に対応する施策が重視される傾向がみえる。次いで、人間関係や部活動など「学校内での様子」に対応する施策が重視されている。



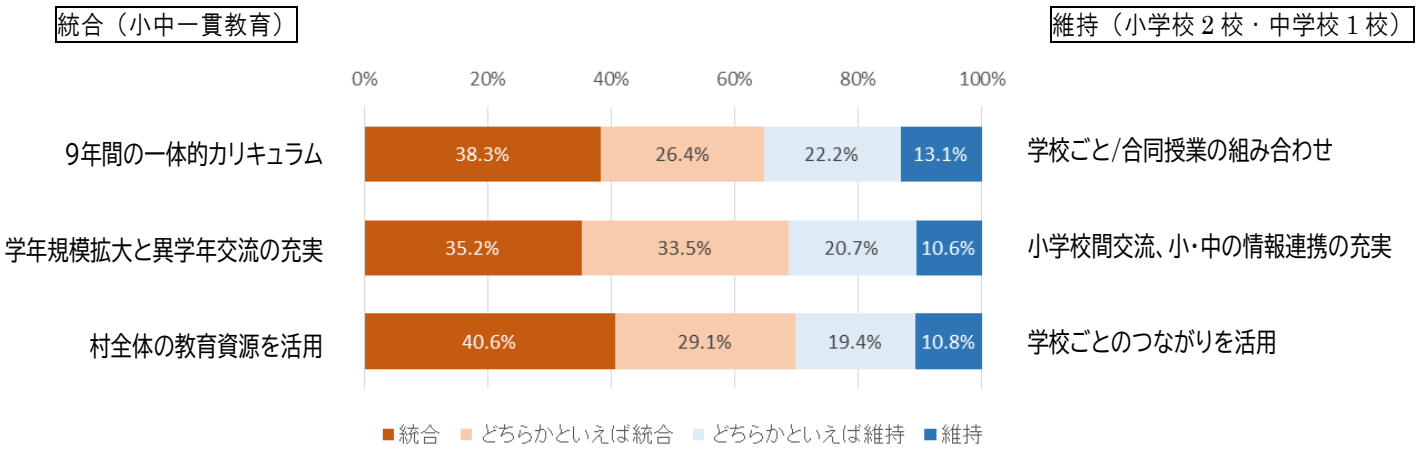
＜参考：中学生以下の子どものいる回答者結果との比較＞

・中学生以下の子どものいる回答者の結果を全回答者のものと比較すると、概ね同じ傾向となっている。

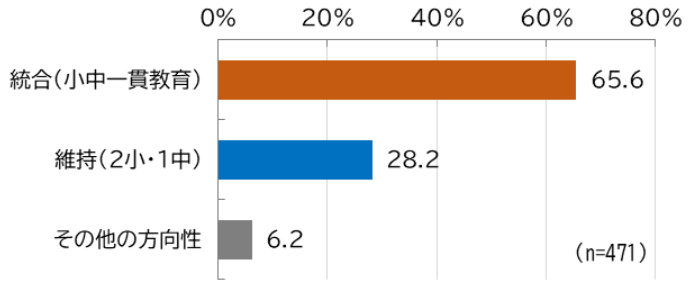


（4）統合／維持の方向性

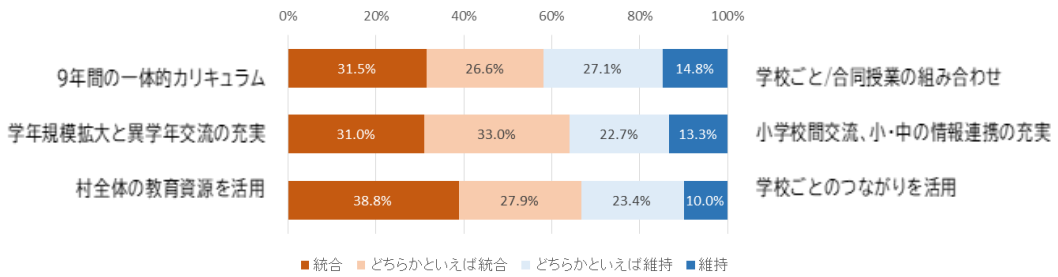
・今後の小・中学校の運営の方向性について、直近で検討すべき視点となっている「統合（小中一貫教育）」または「維持（小学校２校・中学校１校）」という軸でより近い考えを選んでもらったところ、３つの軸のいずれにおいても「統合」の方向性を積極的に選ぶ回答が多く、「どちらかといえば統合」を含めた割合は 60～70%を占めている。

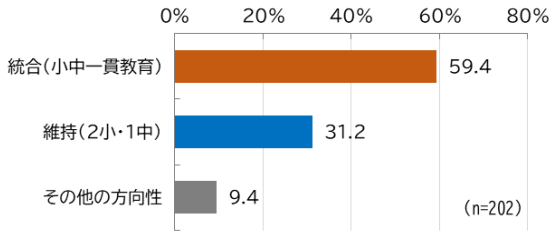


・端的に「統合」「維持」「その他」から最も近い考えを選んでもらったところ、「統合」が 65.6%、「維持」が 28.2%、「その他」が 6.2%となった。



＜参考：中学生以下の子どものいる回答者の結果＞





３．結果のまとめ

（１）「統合（小中一貫教育）」の方向性が約３分の２の支持を得た

中川村の小・中学校の今後の運営にあたっては様々な可能性が考えられ、住民の全員が納得できるひとつの方向性を出すのは難しいとみられるが、「統合（小中一貫教育）」か「維持（（小学校２校・中学校１校））という大きな方向性だけでみると、「統合」が約３分の２の支持を得ており、多くの住民が納得できる方向性であることが確認された。

今後は、この方向性に沿いながら、「維持」の方向性にもとづく意見・懸念点等も踏まえつつ、中川村としてより良い教育環境を構築していくことが求められる。

（２）主体性・自己肯定感が低いといった問題意識を持つ住民が多い

重要視する教育施策の設問では「興味あることを自ら見つけ、探求し、発表する学習の充実」に回答が集中した。添付資料には、この選択肢と対応する課題として「主体性・自己肯定感が低い」ことが示されている。また、他に人間関係や部活動など学校内での様子に関連する施策に対する回答も多い状況となった。

今後中川村としての具体的な教育環境構築を考えるにあたっては、こうした児童生徒の現状の課題や、校内での人間関係・部活動などの課題・懸念事項に対応しながら、具体的な取り組みを考えていくことが求められる。

（３）自由記述では、今後に向けて活用できる様々な視点が提示された

自由記述では、小・中学校のあり方に対する様々な視点が提示されている。こうした内容は、今後構築していく新しい教育環境へも積極的に取り入れていくことが求められる。内容が多種多様になっていることから、今後はその論点や検討事項を整理しながら、住民、学校関係者、教育委員会、村、専門家等が役割分担しながらこれを検討し具体的な取り組みへとつなげていくことも効果的と考えられる。

【自由記述】教育環境をより良くする意見等

自由記述で聞いた教育環境をより良くするアイデア・意見等を、「統合」「維持」「その他」の考えごとに示す。

■統合についてのアイデア・意見等

少人数であることをポジティブに捉え、ひとりひとりの個性を尊重できる環境を整えてほしい。地域や近隣市町村に開けた環境を整え「内弁慶」「お山の大将」とならないよう広い視野を身につけられるような教育であってほしい
小学生は中学生の行動態度を学び中学生は小学生のお手本になれるように学校生活を送ってほしい。少子化で身内も少なくなった現在おもいやりややさしさを知らないで育っている人が多いように思う
学校へ行きたくても行けない、生きにくい子たちが落ち着いて過ごすことの出来る施設を設ける。家庭学習では限界のある部分を補う為の学習会をひらく（オンラインでも可）
統合（中高一貫教育）でいいと思いますが、その前に 2 つの小学校を統合して同一敷地内に小学校 1 つ中学校 1 つは無理かなあと思いました。
異年齢集団学習、異文化交流等を導入し、多様性に富んだ環境で子供達と村を育んでほしい
統合により通学の大変さは出てくると思うが、異学年交流の充実は面白いと思います。多様な意見と触れ合う場を、学校内はもちろん、学校外にも多く求め、広い視野をもって、様々な刺激を受けられる機会が学校にはあって欲しいと願います。
今、息子 2 人いますが、保育園だけでなくもりっこという野外保育も参加させてもらっています。どうしても保育園に行きたくないときなど、リフレッシュのため行き始めましたが、それだけでなく、外で受ける学びや体が丈夫になったり、ほかの良い所があったりしました。今までの教育の方法にプラスし、ちょっと違う教育をしてくれる場所があるというのも、これからの時代いいのではないかな？と感じました。（中川村の村内にあるので、とてもかよいやすいので）
教育施設の充実化を図ってもらいたいです。今後、部活動など、他市町村に頼る時代になると思いますが、そのときに村内で活動できるよう整備していただけると子供たちにとっても良いと思います。
・異年齢者間での力の差を覚え集団の中での生活を覚える・年長者、年少者の互助関係を希望します
児童数・生徒数が多くなればそれでよしでなく、個人が埋もれてしまっては何もならないと思います。リーダーを育てるのは大切ですが、落ちこぼれなく皆が幸せな学校生活を送れることを願ってやみません。
登下校の時にバスを使うことはできないのか。
公民館や博物館、美術館の専門知識や技術を体験する機会を増やす。
全国の村の問題だと思います。全国の良いと思う学校を選んで議会、役場、代表村民でじっくり話し合うことだと思いますが、絶対いいという話にはならないと思いますが少しは良くなると思います。
中学生が小学生に対して指導（クラブ活動等）できる環境を整備して小、中学生の交流が深められればいいと思います
すでにある一貫校の意見を参考にする。そのうえで判断
少数の子ども同士の集まりでも、多くを学ぶことは可能でしょうが、ある程度の数の中で、物の考え方の多様性や、道徳的価値観の向上が望めると考えます。少子化時代をむかえ、村の経済面においても統合は必要かと思います。その中で、地域の人達と交流を持ち、中川村の人たちの優しさを感じつつ人間が育てば、自らの方向性を持てる、決める大人に成長していくのではないかと思います。子供達が、時間のあるおじいさん、おばあさんとお茶等飲んで話せるようなコミュニティがあればいいかもしれません。（昔のような）
村全体での連携を大切にしていただきたいので、運動会など村民参加の村の運動会にするのはいかがでしょうか。子供がいない方々にも子供と接していただいて登下校時にも防犯を兼ねコミュニケーションを気軽にしてもらえたらと思います。
大人になっても中川村で働き、暮らしたいと思えるように村内の魅力が伝わる行事と共に、都会や地方の経験をしてもらうと良いと思う。大人の背中を見て育つはずです。
生徒が少ないから出来ることに着目して欲しい←中川村の教育の特色づくり。村内の小中学生の交流の充実では現状と変化がない。子供の興味のあることに長けた大人との出会いの機会が増えるといい
新しい校歌
飯島の学校との交流を持つ
仮称「学校応援団」の設立、充実。先生だけでなく地域の特技者・学識者一体となって教育できる体制づくり・中川村が農業立村でいくならば、それに合わせた野外カリキュラムの充実
様々な人と出会ったり交流することが重要だと思います。脳の発育には 30 分以上の有酸素運動が大切なので球技大会などのイベントを多くやると良いと思います。
統合して、場所の問題は常について回る。特に年少学年の通学はコミュニティーバスを利用することになり、昨今の運動能力低下に直結する。体力は体だけでなく頭脳活動にも重要なポイント。教師の働き方改革での部活動の地域にない部はどう影響するのか？体力向上の維持の案件は？学校の「子供等の声がやかましい」という意見もあるという現在。地域住民がかかわるという行事は大切と思う。対象の子供のいない家の者も受け入れる対応が望まれる（と考える）
今年子供たちの人数が少なくなるばかりなので、大人数でもまれたほうが人間（思いやりや競争心も現れてくるのではないでしょうか？
個性を生かす、好きなことに夢中になれる。ひとりひとりが生き生きと自信をつけて高校へ進学するための教育

だんだん少子化になり、家に帰宅しても一人の子が多くなり、兄弟、姉、妹の存在もわかりにくくなり一人っ子の特徴が出てくると思う。我が地区でも 10 軒ですが年長さんの子供が一人です（小学生、中学、高校など）今の世戸中家族というものが薄くなりつつある。もっと温かみのある学校生活を望みます。でも年寄りには難しいアンケートでした。
学校農園、学校動物園、学校養魚池などふれあいの場があればいい
通学方法を考えること（小中学生別にどこの地区は歩くとか。）
遠距離を歩く子供たちが大変だと見えるときと楽しそうに歩いているときと両方が見られますが、兄弟が少ない現代の子供たちは学校帰りの時間まで学校で過ごして大人数移動がいいか悪いかわからない。けれどその方が楽しいのではないか？
他校との交流を多くする。地域とのつながりを多くする
現状がいいと思うが、先のことを考えると小中一貫の方がいいかと考える。ほかの学校の情報が欲しい。小中一貫にして良かった点等
中川村は自然豊かな村である。その自然の中で制限なく自由に行動し経験・体験を積み重ね学べる環境に。そして多くの友達と交わり・自身を成長させる環境が必要と考える。その行動を温かく優しく見守ってもらえる地域住民の心の広い協力も不可欠であると思う。
小中一貫教育、全国の事例を良く参考にして欲しい
1，小中一貫の良さを生かし、カリキュラムの一貫性を持たせたい。できれば、保育園からの「生きる力を育む」筋の通った活動（内容）をとり入れることができると一層良いと思う。2，小学校高学年から教科担任制を導入したい。（教員の免許の関係で半分くらいの教科でもやむを得ない）3，小中一貫の中身について、義務教育学校（園）やいろいろな方法が考えられるが、人事や先々のことまで考えて進められたい 4，公的支援による学習支援の「未来塾」（学習塾）を設置したい（学力向上のために）5，部活動の地域指導者をボランティアに頼るのみでなく、報酬をきちんと払えるような体制（財政支援）を考えたい。
社会に出て通用する人になるための教育。礼儀正しい人間になる事。コミュニケーションの充実。あいさつの大切さを学
子供達には地域の外に目を向けていけるような教育が必要だと思います。地域外との交流を積極的に増やすようなことがあればいいと思います
学校の教育環境を良くする（感染症対応の充実・手洗い場・洗口場の数を増やす、全教室換気扇をつける etc.）ICT 活用の充実。地域連携を行い特色ある校風づくり
長野県の中高一貫校、全寮制ではあるが中学生と高校生の交流はすばらしいものがある。そのような年上との交流は互いに成長につながる。一度確認を!!・イタリア人にピザを教えてもらう等中川村で働いている方たちの活用・子供達で株式会社を作る、サービスを作る、商品を作る
大切な時期を一人一人に目を向け、学校・家庭・地域がお互いに勉強し合いながら成長できる 9 年間となる様、夢や希望をもって進んでいけたらと思います。音楽、芸術にも力を入れて欲しい。ランチルームで一緒に食事も良いかと思います
アイデアはないですが、メリットを最大限に伸ばし、デメリットを極力少なくすることが重要と考えます。さまざまな教育の問題に対し、小学校と中学校が連携・協力して問題解決をしていければと思います。ただ、文部科学省の「小中連携、一貫教育の推進について」等をみると簡単には行かないと思います
小学校 2 校中学校が近くにあり統合は余りむずかしくないと思うしあまり子供が少なくっても活動なども思うようにできないだろうし。無理なくいろいろが出来るなら申し訳ありません。外で元気に遊ぶ子供さんたちが少ないかなって思ったり。少なくっても小学校くらいは統合も必要かなと思っています。中学校は出来ているので皆様の考えに併せてより良い中川学校を。
小中一貫教育や小規模自治体での学校教育にくわしい先生や教育関係者を採用し、教育の質を上げる
保育小学中学統合（牧ヶ原に統合）
併設型小中一貫校なら年数も 9 年で教育でき小学校、中学校の教員は別ですので教員数も獲得できるのではないか。最終は義務教育一貫校になるのではないでしょうか
地域資源や環境を生かした教育の導入・先生が移動しても、中川村の教育としてビジョン（理念）を決め、どんな先生でも、同じ目的に向かって生徒の成長を見守ることの出来る学校運営になると良い→校長権限ではなく地域が学校を作るつもりで
少人数でさみしいので大切にしたい。私たちの時代は中学で学年が 3 クラスあり賑やかでした。
熟練度別学習グループ編成
統合により年齢の違う子供が集まる場ができる。その中で勉強、年上の人に対する態度などが学べる場になればいいと思う・勉強のほかに対人関係、言葉遣いなどの社会勉強もできるといいのではと思う
保育園から中学まで同じ顔ぶれの中で学校生活を送ると中 1 ギャップより高 1 ギャップの心配があると思います。できるだけ他校とふれあい行動する機会を作って欲しいと思います。少子化はどこでも悩ましい所ですが、それでも子供の増えている村もあります。自然だけをアピールせずほかの方法で村に来てもらえることを考えて欲しいと思います。
保育園から同じ子供が一年生になりますので子供同士のランクが出来ていて乗り越えようとしないのではないかと思います。中学校の部活を見ているだけで小学校の時から中学生になったら何に入ろうか参考になるのでは
・高等学校の設立、職業科、普通科どちらでも選べる・通学のしやすい環境づくり
児童、生徒へのきめ細かい指導が継続できるよう人員やサポートなどの配慮をしていって頂き、安心して児童・生徒が教育を受けられるようにできることを願います
いきなり統合は難しいので部活動等の活動を小中で一緒に行ってはどうか
すでに小中一貫教育を実践している学校にメリット・デメリットを聞くことによって望ましい方向性を見出す必要あり

小学校でもスライド制を導入し、専科や教科担任制をとり入れていく。児童数が少なければ二か年で 1 クラスと考えていっても良いのではないか。・縦割りでの活動を今までよりも充実していく必要があるのではないか。ほかの人との意識が少なく競争心ができない。強い意識をもっていって欲しい
資料を拝見しても、様々なことを考えても、統合の方向性の方がより良いのではないかと考えます。その際、当然課題も出てくると思いますが（例えば、人数が多くなることにより児童（生徒も？）一人一人へのきめ細かい指導や配慮への心配、各校の良さや伝統の継承等々）一つ一つ丁寧に対応を考えていっていただければ統合による良さの方がより大きい様に思います。アンケートの中にもありますように学校に、村全体の教育資源を活用し、子供達を中心としてコミュニティの場としての役割ももちながら、活気のあるものになればいいなと思います
特徴ある教育（教科）の充実
未来のことを考えると統合し、小さくても多様な形が望める方向性がいいと思う。村として学校として以外の活動に力を発揮できる人（村民）を村がバックアップ、サポートすることができるとより教育に厚みが出ると思う。
それぞれの子どもの興味や関心をのばしたり、授業が退屈な子供に向けたプリントを用意するなど、できる子どもを形にはめ込まない教育をしてほしいなと思います。あと、すべり山のような中川でしかできない体験はなくさないでほしいです。
一貫の強みを活かし、9 年間で義務教育を終わるよう、柔軟に英語教育など早いうちから国際化に対応できるカリキュラムをくみかえる。
全校給食。全校文化祭(小学生から年上の発表や出し物を見て発想の視野を拡げていってほしい）。全校勉強会(中学生の学習の基礎基本は小学校。小学校の学習に触れる機会が定期的にあれば基礎学習能力の向上に繋がるかもしれない。また、先生(大人)の言うことを聞きたくない小学生も中学生の教えなら聞けるかもしれない。教え教わって全校の基礎学習能力向上につながれば良い。）
各校の伝統は残しつつも、両立しないような行事などがあった場合に廃止にするなど、伝統に引きずられないようにして欲しい。 地域に根ざした学校ではあると思うが、児童にとって何が最良であるかを優先するものであってほしい。
・牧ヶ原を「educational base」として小中一貫の教育カリキュラムを実践。教育施設や予算を集中化。 ・地域だけに依存することなく、魅力的な外国語教育・科学教育。指導者の募集。 ・個別最適化のための機器の導入。成果の情報発信。 ・「中川村で学びたい」と願う他地域、都市部生徒、海外の留学生の柔軟な受け入れ。
小中一貫にするのであれば村の施設とは別に、学校の施設を充実させて、教室なり体育館なり小学生中学生それぞれに制限が出ないように、困らないようにしてもらいたい。
統合した場合スクールバスを用意していただけるとありがたいです。
それぞれの学校で伝統としておこなわれてきたものは残してほしいです。
主体性　自己肯定感が低いというのは、施設だけの解決では誤りではないか。 インターネット回線の充実。学習塾並に学べる。公園や高齢者施設を併設。
ネットやゲームなどの影響で世界や日本全国の年代、性別、人種を超えた関わりがより身近になっていると思います。自分の可能性や世界を広げるためには早いうちから同年代の友達は多い方がいいと思います。人間関係が狭く、固定されがちかもしれませんが小学 6 年間も長く、私の印象では小学校で不登校の子は中学も通えない子が多かった気がします。また、中学から通えなくなる子もいた気がします。学校3つの維持費にお金を費やすよりは、統合し中間一貫校になるのは人口減少の当村では必然な気がします。先生方も人数が減ったとしてきめ細かな指導を今以上に推進することは難しいのではないでしょうか？（人数が減った方が具体的にどういう教育ができ、不登校の児が減るのかというデータがあるのであれば分校もありかと思いますのでその場合はご提示頂けたらと思います。） 今までの教育を続けていては、中川村は限界集落を迎え存続の危機に到ると思います→現状、中川村で生まれ育った若者の多くが村外で暮らしていると思います。しかし、村に戻ってくる人、村外で暮らす人がいるのは自然の流れだと思いますので、重要なのは移住したいと思う子育て世代が中川村を選んでくれる魅力的な教育方針、補助制度、地域性、就職環境になると思います。軽井沢風越学園では、野外活動や体験から学ぶことを大事にしていると友人から聞いています。座学ばかりではなく、長野という自然に恵まれた環境を生かした教育を取り入れることが他校との差別化ができるのではないでしょうか。
子供自体の数が少なくなって来ているので、小中一貫という事もあるかも知れませんが、より良い方向になる事を望みます。
指導よりは自主性を重視して欲しい。 言われないと自分で考えようとしなくなり、自立が苦手な人になるのでは。
統合する場合、学年年齢問わず通学にスクールバスを導入してほしいです。現状うちの小学生は帰宅に 1 時間かかっている。その時間と体力を消耗する事を、他の体験や学習に当てた方が良い。特に中学以降は他自治体の学生と学力差が出るのでは？と心配です。通学を歩く事により体力が付く、等と言われるが、都市部の学生はそもそも 1 時間通学に当てたりしないので問題無い。他所の地域との格差になる部分を改善してほしい。 空いた時間にクラブ活動のような体験の場を充実させてくれると尚ありがたいです。
古くなった既存の価値観を捨て、学校だけでなく福祉や保育、介護、さらに商業などと連携し村独自の教育がなされたらかっこいいと思っている。例えば空き教室を利用して大人の給食室として月一に希望の高齢者に給食を提供するとか、バスでお迎えに行くとか、その際給食の係の子たちと交流するとか、豊かなアイデアで運営を考えていくといいと思う。学校の周りに衣料品店や美容室、カフェなどを併設し、高齢者の生き生きするチャンスを作ったり、そこに中学生に職場体験に行かせたり、村で創作活動をしている方々の店を出したりと枠を広げていくのも面白い。村の規模でしかできないので、先進的な教育活動になると思う。なんてことを少し前から考えています。
クラス替えの実施
統合することで、今より更に環境が変わりにくいというデメリットがあると思います。他の市町村との交流などを増やして、子供たちの視野が広くなるような活動を増やしてもらいたいです。
これから中川村を引っ張っていくであろう、30 代や 40 代の地域の人と小学生が、村の将来についての話し合いをしてみては?村の若者離れにも歯止めを掛けられるチャンスが有るかも
小中一貫校となると、友達関係で躓くと、九年間辛くなるので、近隣校との交流を図り、他地域への進学の選択も充実させてほしい。

来年より施行される「子ども基本法」に基づいた教育を進めたい。「幸福度」の高い北欧諸国では、主権者教育が盛んです。子どもを“子ども“扱いせず、主権者意識、「未来は自分の声や力で変えていける」、という感覚・意識を育てることが、子ども自身の幸せと、地域の未来にとって大切ではないかと思います。ゆえに、そのための仕組み、環境を教育現場のなかで整えていくことが必要だと感じています。ですが私も含め、そういった教育を受けてこなかったので、どうやればいいか、良くわからない。まずは保護者、先生、地域の大人たちが、率先して勉強し、世界や日本の事例を学び、意識を変えていく必要があるかと思います。行事の内容を子どもに決めてもらうことは、既にやっていますが、そもそもの学校運営、意志決定の場に必ず子どもを入れてほしいです。また、「三者協議会」のような事例がありますが、保護者や地域の人も運営の場に入り、「自分は地域の学校をつくる一人である」という意識で、信頼と協力関係を築いて活発な学校を共につくっていけるといいなと思います。
色んな方向性はあると思いますが、これからの少子化問題を考えると教育の環境もこの先今までとは違った方向でも考えたほうが子供たちの未来にもつながるのではとアンケートを答えながら感じました。 ありがとうございました。
身近に年寄りがいない子供も多いので、デイサービスの施設が敷地内にある環境にすれば相互にいい影響があるように感じます。
自宅の環境は様々なので、統合するのであれば、図書館や自習スペースを充実させ、村の図書館やコワーキングスペースとも近接するようにすると、おもしろい。高校生も使えると尚良い。
統合派だが、少人数のため閉鎖的な人間関係になりやすく高 1 ショックを受けやすい状況になってしまう懸念がある。 そのため、外部との交流を定期的に行うようにして免疫を付けていくことが大切だと思う。
小中一貫校にすることで教員数を減らすのではなく、余裕のある配置にして欲しい。 特に中学校では部活動を保護者や地域の方々に依頼していることが多いが、村には対応できる人員が少なく、同じ人に負担がかかりすぎる傾向がある。 また、多くの方が定年退職後も働き続ける割合が多く、生活（子育て世代ではない）に余裕のある方が対応することも期待しにくい。 ボランティアではなく、賃金を支払う形の方が、関わってくれる方が増えると思う。
子供の数も減少していると思いますので、施設の面では統合の方向で良いかと思います。ただし、教育の面では不安があります。現在の中学校教育がどのようなのか存じ上げませんが、私の頃は「個性をつぶす教育」でした。よくわからない、大人になった今でも納得のいかない決まり事が多数あり、本来ならば個性を「違い」を当たり前のものと認め合い、自分の持っているものを差し出して、協力し合う関係性を学ぶ事が重要だと思っています。 決まりによって服装や髪型(染髪含む)を統一化させるから「違う」ものは「悪」「怖いもの」となってしまう。皆バラバラであれば慣れによって「違い」は気にならないはずであると思います。(国際化の世の中で「違い」に慣れていないこと、「違い」が無いことは致命的です） 中学校教育が伸びやかでないと、一緒になった小学生への影響が心配です。 中学校では部活動の雰囲気にもよりますが、先輩が後輩に対して変に高圧的になる現象もおきます。小学校と統合することにより学年の壁を無くした学習や触れ合いをする事で、この問題が改善されれば良いなと期待します。 学習だけならば自宅でも出来る時代です。道具さえあれば学ぶための情報が無料でも簡単に手に入ります。しかしながら自己肯定の為に必要な「誰かのために動く、必要とされる、感謝される」は家の中だけでは得にくいものですので、これを学ぶための課外授業や体験に時間と力を入れて頂きたいと思います。 ・農業高校でやっているような、農作物の手入れ、収穫、パッケージ、販売(店頭、ネット)、会計などを課外授業などで実際の社会人から学びながら生徒主体で事業を経験する ・各種アーティストの方々との触れ合いによって、物作りや音楽等に触れ、表現する事に慣れる(自分を出すことは恥ずかしくない、「正解」はない） 中川村は個性的な大人が揃っていると感じますので、協力を得られれば良い学びの機会があると思います。教師だけでは教えるにも限界があると思いますので、地域の皆さんの協力を上手く活用できれば良いなと思います。
統合してもランチルームは維持して、全校生徒が同じ空間で給食を食べられるようにして欲しい。ランチルームがあれば、イベントや講話等の幅も広がると思う。 全校生徒が関われる文化祭を開催して欲しい。
統合しても、人数が少ないため、きめ細かい指導は実現可能と考えています。 それ以上に、より多くの人間と関わることで人間社会を学び、より多くの経験や体験を増やすことが、必要だと考えています。 近隣自治体と協力して、子供が元気に体を動かすイベントや、憧れのスポーツ選手が来るイベント、みんなで一緒に何か作品などを作り上げるイベントや、地域の名産品を使って何かを作る体験会などがあったらいいなと思います。 コロナ禍のため現時点ですぐには難しいかもしれません。また、人数も大勢は難しいかもしれません。でも、学校を超えて、地域を超えて、多くの人と関わる、知り合う、協力し合うイベントがあるといいなと思います。 現在の中川村の教育環境の強みの部分は小中一貫統合をしても、保たれる部分かなと思います。そのため、課題に目を向け、課題改善に向けた施策を行うべきだと思います。
生徒数が少なくなってきている為、もっと地域の方との交流や、部活動などは幅を少し広げてバスケットボールやサッカーなど増やして欲しい。 地域の方々にコーチを依頼し先生たちのサポートが出来るようになれば良いと思います。 ただし、9 年間同じクラスと言うのは子どもたちの交流などにも良くないと考えます。 なので、小学校課程が終わった段階でクラス替えや 3 年に一度のクラス替えなどを希望します。 やはりクラスでの繋がりが将来的にも強くなるので、実施検討をお願いしたい。 行事など校庭やグラウンドが狭ければ社会体育施設を使用したら良いと思いますし、中学校付近は図書館などもあり、学習の場としては村内で最適だと思います。
多様な人間関係への対応経験が必要と思われます。
統合後の近くに保育園もひとつにしたほうが良いと思う。
少子化なので、どちらにも一長一短あるとは思いますが、統合止むなし且つ、統合のメリットの方が大きくなるのではと思います。 また、より良い教育環境の一部として通学環境があります。 オンライン授業やリモート授業の積極的な活用や、全生徒のバス通学などが必要だと思います。
東京都の麹町中学校、山形県の天童中部小学校の取り組みに、中川村の子どもたちに必要な学びのヒントがあると思う。そうなるために大人がどのように子どもたちと関わっているか多くの人に知ってもらいたい。せっかくのチャンス。視野を広げて実践校から積極的にヒントを集めたい。
・「統合」にするなら、送迎の交通手段の拡充をお願いしたい（デマンドタクシー等の利用拡充）。 ・子供たちの主体性を育むために、遊育（子供達が自分の責任で自由に遊ぶ場・プレーパーク等）の場を地域に整えて欲しい。子供達が群になって、身体を使って遊ぶ中から、人間らしい主体性が育まれると思います。 ・地域と連携した継続的な郷土学習・野外学習の仕組みを、統合ヴィジョンに組み込んで

欲しい。 ・統合に向けて中川村の教育理念がいよいよ重要になってくる。村民と共に幅広い議論を重ねて行って欲しい。 単純なアンケートやワークショップだけでなく、学習会・先進事例の視察・討論型世論調査などを行い、既成のシナリオに頼らない村民主体の意識形成に努めて欲しい。

■維持についてのアイデア・意見等

小中一貫教育の実施の前に東小と西小の生徒が交流する機会をもっと増やしてからではないかと思う。建物の劣化から、小中一貫教育で建て直しの考えは大人の都合では！？
児童生徒が参加する行事を多くすると良いと思います。
東西統合となるには、子供たちの安全を確保できてから。東・西小学校がもっと交流機会をすればいい。通学時、保護者、先生に負担がかかる。何かあれば村が責任をとってくれるなら考える。まずは登校して集団で移動し、東西の交流を深めることから。村の施設をもっと活用できないか？前に比べ、子供たちの「あいさつ」もできない気がする。
とても悩める問題ではありますが・・・小中一貫にした場合子供たちのクラスメンバーが 9 年間変わらないままだと新鮮味がないのでは？（楽しみの一つとして）とも思う。小中一貫にした場合、どの校舎を使うのか、通う事に交通費がかかったり親の送迎が必要な子、村のバスを使用すること等たくさん問題が出てくる…少ない人数でも少人数にしかできない教育もあってよいのでは？
村内という規模で交流を図らず、より多くの他校生徒と交流を持つ環境を整え、多感な時期により自身の考えや意見を伝える場を作る。資料 2 のポイントであげられている事柄は現状でも可（小中一貫)他にここでしか出来ない教育がないか考えることがあると思います。
近い所に小学校が 2 つあるから、西と東の交流をもっとすればいいのでは。また地域の活動や行事に参加することにより、中川村全体の人との交流にもつながることが、人間性を作るのにも良いと思う
統合ありきの話の様に思えます。人数が少ない中でいろいろと勉強することもあります。学校の問題より、村へ大きな会社などに来てもらい村へ人口を増やすことを考えたらと思います。ほかの市町村を見てください。うらやましいです。
今の高校生や中学生が村の魅力を見つけ出せるよう授業や地域の活動を増やしていくべきだと思います。美しい村だけでは将来の夢は見つけ出せないと思います。働く場所、やはり全体活力が不足していると思います。
人数減少＝小中一貫は本来の小中一貫の趣旨からずれる。主体性、自己肯定感が低いので高学年（小）でのリーダーシップをとる機会は重要。西小のブラスバンドで上の子が下の子に責任をもって教えるのはすごくいい。他の学習でもとり入れてはどうか。9 年間では人間関係が固定し、心のリセットができない。小学校の先生と中学校の先生の児童への接し方が違う。中学の先生に小学校体験してもらいたい（中 1 ギャップ）
今の 3，4，5，6 年生、中学生等にも、村の財政上の事、校舎の老朽化などをしっかり話したうえで、子どもたちの意見も聞き取ることが必要と思います。子どもが主役なのですから。
小中一貫教育 9 年間だと、人間関係がさらに狭くなってしまう（全員同じ考えとなってしまう）2小 1 中がベストと考える。部活動や休みの日のクラブ活動は、他校の人と練習をする、合宿するなど違った環境で育った人と一緒に学ぶ機会を増やしていければ良い。多様な人間関係を作るのは、学校よりも部活、クラブの方が多いと感じる
リモート学習や学校以外の地元先生（課外授業や勉強が苦手な生徒への指導者）を作り村全体が教育にかかわるような体制にしていく
基本的には維持をさせていきたい思いが強いが、小規模ゆえ、もまれない弱さみたいなものは感じる。様々な場面で、ほかの学校や仲間を意識したりする活動を多く取り入れたり、学校内で学級という枠にとらわれない学習活動をしていくべきではないかと感じる
小学校と中学校は分けた方がいいと思う。同じ環境はあまりよくない。小学校を統合するのはありだと思う
通学、放課後の交友など思うと現状維持に傾いてしまいます。子供たちがその年齢で身に着けた方がいい経験を教育環境として用意するのに維持か統合かの選択は難しいです。自分の意見が参考にされると思うと材料不足でした
スポーツ等の村の中だけでは指導者を立てる中で探すのは大変になってくると思うし、生徒だけでは部活動が人数が少ないと思うので伊南の 4 市町村で協力し合い合同で活動をしていくなどをしていけたら良いと思います。
小学校では児童数に対する教師の人数が多いほど 1 人 1 人に力をつけてあげることができる。統合しても県より（村費ではなく）小学校 2 校分の教師を入れてもらえるならば統合が良い
後継者不足問題をもっと現実的に考える必要があると思う。同時に空家問題なども同じと思う。
小中学生より意見を聞くことを望む
1 年生の時に一つの課題を生徒に選んでもらいそれを 6 年（9 年）年かけてゆっくり問いていくようなカリキュラムをとっても良いと思う
根本的な村民人口増の手法を。施設＋若い人の集う場所（村外から期待と思える魅力的な行事・施設）を作る、発信する
少子化が進んだ場合は統合という道もしょうがないと思いますが、現在の小学校から中学での環境の変化の無い小中一貫教育では、高 1 ショックがより大きくなってしまうように思います。 通常の学校生活では少人数の良さを活かし、他校、離れた地域、海外などとの交流の場を持てる環境も用意してあげることができればバランスが取れるのではないでしょうか？
私は社会人になって英語数学国語理科の知識が必要な仕事をする機会が長くありました。各科目を教えるのは大変なことだと思いますが、どんな科目も将来に繋がっていることも伝えてもらえたら、より興味を持つかも知れません。
少し話の軸がずれるかもしれませんが、 少子化で子供が少なくなっていきますが、 若い世代の中川村に定住する人が増えていけば子供も少なからず増えると思います。 そのために中川村の良さをもっと広く知ってもらう活動や、 子育て世代への補助の充実、若者向

け住宅の大草地区ももう少しあっても良いのかもしれません。 意外と住もうと思っても売り出している土地が少なかったりしました。（体験談） 自分も何か中川村を知ってもらったり住みたいと思ってもらえる活動ができたらなと思っています。 あくまで個人的な感想です。
私の家庭は家族がみな忙しくしていたため、部活動や行事などに参加したくても送迎を頼みづらく、参加をあきらめたことが多々ありました。学校施設が分散していることで、「ここなら近いから行ける」という選択肢が増えるのではないでしょうか。 しかし、部活動の選択肢の無さや、少子化による行事開催の難しさは確かにあるので、近隣地域と連携して規模を大きくすることには賛成です。その場合は、子どもたちの送迎方法を家庭に丸投げではなく、学校ないし行政がサポートする必要があると思います。 また、私は小中学校時代から精神疾患があったのですが、当時は学校生活上でケアを受けられませんでした。教員が児童生徒ひとりひとりの個性を把握して向き合えるように、少人数クラスで維持していく方が良いと思います。ただし、人間関係が固定化されることで、どうしても校内での居場所を失ってしまう子もいるはずです。精神科など病院、専門機関や近隣地域としっかり連携し、そういった子どもの居場所作りは絶対に必要です。
村としての教育方針がしっかり有れば、維持になっても統合になっても良いと思います。 私は一貫の学校に通ったことがないのでとりあえず維持にしました。 維持、統合することのメリットとデメリットをもっと教えて欲しいです、 金銭面、運営面でキツいので～みたいな雰囲気を１番最初に感じてしまいました。 それはそれで良いのですが、子供たちの為を考えているのかはよく分からないなと思いました。 話はズレますが、子供が減っていく体で話が進んでますが、村は少子化対策他にしないのですか？ 統合することが対策ということですか？ 子供が増えるような政策や努力はしないですか？ 子供が生まれるので特に感じますが、中川村は子供に対する手当は少ないと思います。 学校の運営以外で変わる様子が無ければ宮田村に引っ越す予定です、 理由は子供の対応が手厚いからです。私個人としては前述の通り、学校が今のままでも統合してもどちらでも良いです。 どうなろうが子供は自分で上手いことやっていくと思いますし、学校の在り方自体はそんなに関係ないと思います。 他にもやることあるんじゃないですか？ 少子化の原因わかってますか？ 子供が増えるような、産みやすい環境作りしてください。 もう中川出るから良いですけど
少人数学習の方が成績ものびました。先生の一人に対するサポートも手厚くなりよいとおもう。 統合することによって同じメンバーで9年間学ぶ方が高1ショック？になりませんか？
従来型の一斉授業ではなく、各自の探究心を育む特色ある学校づくりと有機給食で、村内のこどもを伸びやかに育て、地域外からも選ばれる学校となること。その近しい前例は、風越学園や大日向小学校など、すでに県内に現れています。 保育園や小学校がないエリアは、同じ自治体の中でも移住者の転入が減ると聞きました。一度閉じてしまった学校を再び開くことは極めて困難です、現状維持しながら、双方の交流を深め、村全体を学びの場にできる中川村を望みます。また、余談ではありますが、村の文化度の指標でもある図書館も、ぜひさらなる規模拡大をと願います。
高学年から定期的な東西児童の交流会を開催し、1 中合流時の、スムーズな人間関係を狙う。 また、2 小 1 中は、必ず 6 年後に環境変化を体験出来ることから、将来幾度と遭遇するであろう環境変化に慣れる為の訓練と位置付けられる。
近くに同学年の仲間がいることを意識し、その意識の中で身近な先生や友達との関係を大事にすることを重視する。
小中一貫だと友達がずっと同じで友達をつくる経験が中学で一回あった方がいいと思います。
子育て世代の人口増加を願います。
子供の人数が減少している事、東西の小学生の成長、考え方が大分異なっている事から、東西の小学校を統合する考えはあっても良いかもしれない。その方が中学校へ進学した時、人間関係での悩みが軽減されると思う。 私達の頃は、東西の小学校で学び、中学校で一緒になるという事が当然の事だったが、今の子供達には、負担になる子がいると思う。
小学校の統合だけは避けていただきたい。 中学校入学という時期（年齢）の新しい出会い（新しい出発）も大切にしてほしい。 東側だけが移動など、東が不利になる事がないようにしてほしい。
小、中学校を統合したところで中川村で育つという環境には変わらない。地域の良さを伸ばすことは重要なのかも知れないが世間知らずに育ち、社会に出て苦労をするイメージがある。教育を村で完結するのではなく他の地域とのコミュニケーションを増やしコミュニティが広がるような教育が必要なように感じる。
多くの先生たちにみていただく環境。小さなコミュニティの形成する事で自分の役割を理解する。
まず初めに、問 8 の項目についてです。方向性によって内容が変わる(両立できない)ポイントとして挙げられていますが、いずれか一方の方向性を選んだとしても、もう一方の項目を達成することはできると思います。例えば①の「9 年間の一体的カリキュラム」は、必ずしも小中一貫校でなければできないわけではないと思います。村で作成したカリキュラムをもとに、各校が学びの内容を設定していけば、3 つの学校に分かれていたとしても同じ方向性で教育を進めていくことができます。その他②③の項目についても同様で、一貫校でなくても異学年交流の充実や村全体の教育資源の活用はできます。 次に、資料 1 についてです。図表の 4 では、中川村の子どもたちの主体性・自己肯定感の低さが課題として挙げられています。主体的に学びに向かう姿勢や自己肯定感を育むために、アンケート用紙問 7 の「A.興味のあることを自ら見つけ、探究し、発表する学習の充実」が有効な方法であり、高等学校教育の中でも必ず行われる学びです。そして、探究学習を行う上で必ず必要となるのが児童生徒一人ひとり異なる関心に寄り添い、自ら問いを立てて探究できる時間や機会を作る教員の心持ち(余裕=あそび)なのかなと思います。考えていることがあるのかもしれませんが、統合されることで教員 1 人に対しての受け持つ生徒の数が多くなり、生徒一人ひとりに寄り添える余裕もなくなるように思えます。 資料のような中川村の課題を真摯に考えるのであれば、統合であれ、維持であれ、教員 1 人に対しての受け持つ生徒の人数に余裕があり、日々こなすカリキュラムにも余裕がある教育環境にしていくべきかと思います。 最後に、根本的な部分についてです。今回、統合した場合と維持した場合、それぞれのメリットと村の教育課題を提示して、どちらの方向性をとるべきか考えるという形を取っています。しかしながら、統合か維持かというのはあくまでも『方法』であり、まずはじめに決めるべきなのは、村としてどんな子どもを育てたいのか、という『目的』だと思います。現状での子どもたちの強みと課題を整理した上で、村として育てたい子ども像を設定し、そのためにはどのような教育内容を進めていくのかを具体的に考え、その後にその教育内容を実践しやすい教育環境が決まってくるべきだと思います。今回のようなアンケートを通して、村民の総意として育てたい子ども像→その子どもを育てるための教育内容→それを実践するための教育環境、というように決めてい

ってもらえるとありがたいなと思います。 大事なのはカタチよりも中身なのかと思います。できれば大切な我が子を預ける村民として、大事な中身の部分で検討したいというのが本音です。

■その他の方向性についてのアイデア・意見等

小中統合だと低学年の子どもと中学 2，3 年との体格差が大きく怖がってしまう子もでてきてしまう気がするので、東西小学校のみ統合でもいい気がする
居場所づくりは必要でなくてはならないとは思いますが…。
学校を統合することにより、児童数が増え、クラス替えができるメリットは大きい反面、統合により、校長、教頭、事務、用務といった学校を支える人員は減ってしまう。（県がお金を出してくれるものをわざわざ減らす）小 2 校の統合はメリットの方が大きいと考えるが、小中の統合はデメリットの方が大きいと考える。小 1 校、中 1 校の校舎を新設し、プールは 2 校共用か外部スイミングスクールを活用。グランドや体育館は村営施設を活用しコストダウンをはかってはどうか。2 校を近くに作ることにより統合せずとも小中の連携は可能です。教員の配置が認められるかの確認は県にする必要がありますが、一考の価値はあると思います。モデルケースとして阿南第二中と新野小学校をあげておきます。以上現役事務職員の考えでした。
学校行事を合同するなど、少ないからまとめてしまうだけでなくて、何か方法はないかな？と考えます。9 年間過ごして、高校へ行ったときに高校ショックは軽減できるのか…わかりません。クラス替えが出来るのなら環境の変化に対しての免疫はできそうですが
村内の環境を多角的に教育資源として活用するのは子供の経験にプラスになると思うが、成長期の小学生と思春期の中学生では教育の根幹が異なるので安易に統合すべきではない。それよりもほかの自治体と積極的に意見交換し、まず村外や県外からの子育て世代の移住者を増やす取り組みをした方がいい。このままではどのような施策を行っても数年先には教育崩壊に陥ってしまう。環境の異なる外部の子供が増えれば互いに刺激となり教育環境も変わっていくし、持続的な教育も可能になり教育自体の幅も広げられるようになる。
設備・教員数で統合が合理的としたいのでしょうが、ソフト面をもっと丁寧に。自分の意見を自由に言いやすい雰囲気づくり特異なところ、個性を伸ばせるようサポート。村特有の？同調圧力が子供に苦しそうだったので多様性を認めるような方向性も大事だと思う。（少人数・多クラスの交流）
ICT を活用しほかの学校との交流を活発にする
文化系と運動系の部活を掛け持ちできるような活動方法、学校外、地域外のクラブに参加することも可能な部活動運営をしていくべきではと思う
1．公民館、役場、村民グラウンド等の村有設備と学校の一体化。村長イコール校長　2．生涯学習との連携。給食センタの一般開放（村の弁当センタ）による収益強化。 ※小中の区別・けじめは必要と考えるので、一体化は反対。（同じ敷地は良い）
そもそも村自体が子育てや誘致、宣伝が足りない時点で今後の少子高齢化で破綻が見えているのでは？ 短期ではなく中、長期スパンで見たらさっさと近隣市町村に学校を統合しより広い視野で教育できる環境を作ってやるべき。 このままは閉鎖的な環境になり悪くなる一方かと。
どちらも良し悪しがあり判断が難しいところだと感じました。 多様な人間関係は学校同士の交流機会を増やすことでも得られるので、維持の方が人数は少ない分、子ども同士での意見交換やきめ細やかな指導が魅力的だと思いました。 ただ人数が少ない中での学校維持費など金銭面での問題が大きいとも思うので、色々総合して考えていかないといけないと思います。
子供達の環境を良くするには、先生方の働き方を見直す必要があると思います。無知で申し訳ありませんが、民間での働き方改革が進む中、先生方の働き方改革は進んでいるのでしょうか。ベースとなる先生方に心身共に余裕がなければ、いくらこちらが意見や要望を出しても目指すべき教育環境にはいかないと思います。
小学校 6 年間、少ない人数で過ごすより合併してひと学年の人数を増やすことによって、様々な人間関係を築く事ができるので良いのでは無いか。 また、小学校、中学校共に 1～2 年で担任は変わるべき。親の次に関わり合いのある大人である担任がずっと同じだと、担任の価値観や雰囲気にあまりに影響されてしまうので、出来るだけ色んな教師にみてもらいたい。
保育園、小学校、中学校を統合し、中川学園とする。 幼児教育から中学校卒業までの12年間を見通した弾力性のあるカリキュラムを作り、自ら課題を見出し、主体的、協働的に（社会と繋がりながら）課題を解決しながら、よりよい社会を創っていける自立した若者を育てていく学校（学園）をつくる。 小中学校を統合するところは多くなってきたが、公立の学校で保育園から統合するところはまだ少ない。園小のスムーズな接続は全国的に喫緊の課題でもある。 中川村の強みである自然環境を生かし、地域、保護者の協力を得ながら、魅力的な未来を想像できる子どもたちを育てる、先進的な学校づくりを進めていってはどうか。 中川村の環境があれば、小中学校の地域を教材にする学習で探究する力を育んでいくことはもちろん、保育園でも中川村の自然を生かして目一杯遊ぶ中から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に無理なく近づけていくこともできる。園児から100歳までが一緒に学べる教育の中川村。魅力ある村づくりは教育（学校づくり）からもアプローチできると思います。
今の中学の場所に、新に建物を建て小学校を統合する。体育館等、小中学校で共有したらいい。
子どもに寄り添った形の教育であれば良いと思います。
そもそも、2 択に方針を整理した時点でのアンケート聴取に意味があるのでしょうか。 これでは住民投票と同じです。少なくとも委員会のメンバーや議事の内容は開示すべきです。　施設の老朽化の問題ありきで教育方針が変更されるという印象を受けます。 公立の中高一貫校が創設されているなか、県の考えがどうなっているのか知りたいです。 学力や進学に関する現課題と対策を示すべきです。 支援級や養護学校との連携も必要です。　いずれにしても、2 択の選択を迫る投票にしては、説明が足りません。

アンケートの内容が、何を知るためのものなのか分かりづらい。 また、新聞での記事に委員会が方向性を示したことを拝見したが、方向性を周知してしまえば、アンケート結果にはバイアスがかかることは専門家の研究でも明らかになっている。方向性を示してから行うアンケートには、どれだけの意味があるのか。このアンケートで決めてしまうのか、というのが正直なところです。村民の意向を聞くのであれば、もっと適切な方法で行ってほしい。　主体性、自己肯定感の低さは学校の規模ではなく、幼少期や家庭の環境、個人の素質であると思う。自分は自分で良い、認めてくれる人がいるなど人間のベースとなる部分がしっかりと土台として出来ていれば変わってくるのではないかと思う。そのためには、基本的には親の接し方だと思う。小さな頃から一人一人とどれだけ向き合えるかが重要と思う。社会生活でいえば、現状の 10 人台のクラスでも先生の目が行き届いていないことを感じる。発達段階の課題は飛ばして獲得することは出来ないように、年齢が小さければ小さい程、手をかけることで成長した時に安定した人間になれるのだと思う。高一ショックという言葉を目にしたが、それは高校生になってからの問題ではなく、それ以前にその子とどう向き合ってきたのかだと思う。高一ショックにならないためにも、幼少期、小学校では一人一人に目が向けられるよう手厚く接していくべきと思う。 また、人数が増えることでいじめが増えることも明らかになっているため、現状で不登校の子がいるのであれば、統合してしまえば学校が一つしかなければ余計に逃げ場を失うことになると思う。 統合すれば、修繕経費や人材確保などの問題においては良いと思うが、大人の都合ではなく、子供のことを考えての決断にしてほしい。 近隣や全国にも、人気のある村があり、そこのケースを真似してみるのもいいと思う。実験ではないので独自ばかりでなく、きちんと根拠のある専門家の意見も参考にしてほしい。アンケートの取り方一つにしても、きちんとした順序、方法を取るべきだったと思う。統合するか否かはとても重要なことなので、今度こそは慎重に決定してほしい。

新しい中川村小・中学校の教育のあり方についての検討の視点と主な意見等

〇教育のあり方についてのこれまでの検討を整理しまとめました。今後、詳細検討における教育内容についての協議に組み入れていきたいと考えています。

検討事項	視点		方針選択	村民へのアンケート調査から得られた主な意見等（自由記述より検討に関連する部分を抽出）	検討委員会やヒアリングで出された施策アイデア等
基本設計	どのような理念・方針を定めるのか		統合	統合に向けて中川村の教育理念がいよいよ重要になってくる。村民と共に幅広い議論を重ねて行って欲しい。	**●中川村ならではの特徴的な教育理念・方針の設定** ・中川村らしさのある特徴的な教育 ・少人数ならではの良さを活かしたカリキュラム設計
			統合	メリットを最大限に伸ばし、デメリットを極力少なくすることが重要と考えます。さまざまな教育の問題に対し、小学校と中学校が連携・協力して問題解決をしていければと思います。	
			統合	大切な時期を一人一人に目を向け、学校・家庭・地域がお互いに勉強し合いながら成長できる9年間となる様、夢や希望をもって進んでいけたらと思います。音楽、芸術にも力を入れて欲しい。	
			統合	だんだん少子化になり、家に帰宅しても一人の子が多くなり、兄弟、姉、妹の存在もわかりにくくなり一人っ子の特徴が出てくると思う。今の世の中家族というものが薄くなりつつある。もっと温かみのある学校	
			統合	地域資源や環境を生かした教育の導入。中川村の教育としてビジョン（理念）を決め、どんな先生でも、同じ目的に向かって生徒の成長を見守ることの出来る学校運営になると良い。校長権限ではなく地域が学校を	
			統合	特徴ある教育（教科）の充実。	
			維持	例えば1年生の時に一つの課題（仮題でも）を生徒に選んでもらいそれを6年（9年）年かけてゆっくり問いていくようなカリキュラムをとっても良いと思う。	
			維持	村としての教育方針がしっかり有れば、維持になっても統合になっても良い。維持、統合することのメリットとデメリットをもっと教えて欲しいです。金銭面、運営面でキツいので～みたいな雰囲気を1番最初に感じてしまいました。それはそれで良いのですが、子供たちの為を考えているのかはよく分からないなと思いました。	
教育カリキュラムの設計	主体的な学びをどう促すか	個々の特性に合った教育	統合	個人が埋もれてしまっては何もならないと思います。リーダーを育てるのは大切ですが、落ちこぼれなく皆が幸せな学校生活を送れることを願ってやみません。	**●主体的な学びの強化** ・興味のあることを深め、発表する ・興味のあることや仲間に出会える場の充実 ・一人ひとりの個性に合った教育の充実 ・最新の社会変化や潮流に応じた教育
			統合	少人数であることをポジティブに捉え、ひとりひとりの個性を尊重できる環境を整えてほしい。	
			統合	個性を生かす、好きなことに夢中になれる。	
			統合	個性を「違い」を当たり前のものと認め合い、自分の持っているものを差し出して、協力し合う関係性を学ぶ事が重要だと思っています。国際化の世の中で「違い」に慣れていないこと、「違い」が無いことは致命的です。	
		生きる力、主体性を育む教育	統合	ひとりひとりが生き生きと自信をつけて高校へ進学するための教育。	
			統合	指導よりは自主性を重視して欲しい。 言われないと自分で考えようとしなくなり、自立が苦手な人になる	
			維持	もまれない弱さみたいなものは感じる。様々な場面で、ほかの学校や仲間を意識したりする活動を多く取り入れたり、学校内で学級という枠にとらわれない学習活動をしていくべきではないかと感じる。	
			維持	主体的に学びに向かう姿勢や自己肯定感を育むには、「興味のあることを自ら見つけ、探究し、発表する学習の充実」が有効な方法。そして、探究学習を行う上で必ず必要となるのが児童生徒一人ひとり異なる関心に寄り添い、自ら問いを立てて探究できる時間や機会を作る教員の心持ち(余裕=あそび)なのかなと思います。	
			維持	従来型の一斉授業ではなく、各自の探究心を育む特色ある学校づくりと有機給食で、村内のこどもを伸びやかに育て、地域外からも選ばれる学校となること。その近しい前例は、風越学園や大日向小学校など、すでに県内に現れています。	
			その他	自分の意見を自由に言いやすい雰囲気づくり、個性を伸ばせるようサポート。村特有の同調圧力が子供に苦しそうだったので多様性を認めるような方向性も大事だと思う。	
	他地域との交流（ＩＣＴ活用含む）	近隣町村の学校との連携	統合	地域や近隣市町村に開けた環境を整え「内弁慶」「お山の大将」とならないよう広い視野を身につけられるような教育であってほしい。	**●他校との交流の強化** ・近隣町村の学校との交流 ・ICT活用による交流機会づくり ・地域外に出ていく機会を増やす ・都会（姉妹都市など）の子どもとの交流機会をつくる（オンライン・向こうが来る・こちらが行く） ・外国人との交流
			統合	小中一貫校となると、友達関係で躓くと、九年間辛くなるので、近隣校との交流を図り、他地域への進学の選択も充実させてほしい。	
			統合	他の市町村との交流などを増やして、子供たちの視野が広くなるような活動を増やしてもらいたい。	
				子供、保護者、地域がより視野を広げ、多様な価値観に接して成長していくために近隣自治体や地域、学校との交流や横断的な取り組み、合同授業・課題活動を積極的にとり入れる	
		都会など地域外との交流	統合	子供達には地域の外に目を向けていけるような教育が必要だと思います。地域外との交流を積極的に増やすようなことがあればいいと思います	
			統合	多様な意見と触れ合う場を、学校内はもちろん、学校外にも多く求め、広い視野をもって、様々な刺激を受けられる機会が学校にはあって欲しいと願います。	
			統合	統合派だが、少人数のため閉鎖的な人間関係になりやすく高1ショックを受けやすい状況になってしまう懸念がある。そのため、外部との交流を定期的に行うようにして免疫を付けていくことが大切。	
			維持	村内という規模で交流を図らず、より多くの他校生徒と交流を持つ環境を整え、多感な時期により自身の考えや意見を伝える場を作る。	
			維持	地域の良さを伸ばすことは重要なのかも知れないが世間知らずに育ち、社会に出て苦労をするイメージがある。教育を村で完結するのではなく他の地域とのコミュニケーションを増やしコミュニティが広がるような教育が必要なように感じる。	
		国際的な交流	統合	ネットやゲームなどの影響で世界や日本全国の年代、性別、人種を超えた関わりがより身近になっていると思います。自分の可能性や世界を広げるためには早いうちから同年代の友達は多い方がいい。	
			統合	柔軟に英語教育など早いうちから国際化に対応できるカリキュラムをくみかえる。	
			統合	異年齢集団学習、異文化交流等を導入し、多様性に富んだ環境で子供達と村を育んでほしい	
			維持	他校、離れた地域、海外などとの交流の場を持てる環境も用意してあげることができればバランスが取れるのではないでしょうか？	
	地域資源をどう学びに活かすか	自然や農体験の充実	統合	中川村が農業立村でいくならば、それに合わせた野外カリキュラムの充実。	**●地域資源（ヒト・コト・モノ）を活かした学びの充実** ・自然を活かした授業、「中川学」の推進 ・キャリア教育の充実、農業をはじめとした様々な仕事体験 ・社会見学など校外に出て経験できる機会を増やす ・子ども達が地域に貢献できる活動に参加する ・学校以外の様々なコミュニティ／サークルに飛び込める機会をつくる、大人と一緒に体験
			統合	保育園だけでなくもりっこという野外保育も参加させてもらっています。リフレッシュのため行き始めましたが、それだけでなく、外で受ける学びや体が丈夫になったり、ほかの良い所がありました。今までの教育の方法にプラスし、ちょっと違う教育をしてくれる場所があるというのも、これからの時代いいのではない	
			統合	すべり山のような中川でしかできない体験はなくさないでほしいです。	
			統合	中川村は自然豊かな村である。その自然の中で制限なく自由に行動し経験・体験を積み重ね学べる環境に。そして多くの友達と交わり・自身を成長させる環境が必要と考える。	
				昔の様に子供さんが少なくなった時、外で遊ぶところをあまり見かけない気がします。自然の中で心と体を鍛えのびのびと勉学にはげみ明るい笑い声がする中学の生徒の成長を祈ります。	
		キャリア教育、仕事体験	統合	中川村で働いている方たちの活用。子供達で株式会社を作る、サービスを作る、商品を作る。	
			維持	今の高校生や中学生が村の魅力を見つけ出せるよう授業や地域の活動を増やしていくべきだと思います。美しい村だけでは将来の夢は見つけ出せないと思います。働く場所、やはり全体活力が不足していると思います。	
				近隣市町村との連携・交流の充実。自然、企業などいろいろな分野で自分の可能性、様々な発想ができる人になって欲しい。	
		地域の人・コミュニティとの連携	統合	地域と連携した継続的な郷土学習・野外学習の仕組みを、統合ヴィジョンに組み込んで欲しい。	
			統合	公民館や博物館、美術館の専門知識や技術を体験する機会を増やす。	
			統合	これから中川村を引っ張っていくであろう、30代や40代の地域の人と小学生が、村の将来についての話し合いをしてみては?村の若者離れにも歯止めを掛けられるチャンスが有るかも。	
			統合	地域の人達と交流を持ち、中川村の人たちの優しさを感じつつ人間が育てば、自らの方向性を持てる、決める大人に成長していくのではないかと思います。時間のあるおじいさん、おばあさんとお茶等飲んで話せるようなコミュニティがあればいいかもしれません。	
			統合	思っている。例えば空き教室を利用して大人の給食室として月一に希望の高齢者に給食を提供するとか、バスでお迎えに行くとか、その際給食の係の子たちと交流するとか、豊かなアイデアで運営を考えていくといいと思う。学校の周りに衣料品店や美容室、カフェなどを併設し、高齢者の生き生きするチャンスを作ったり、そこに中学生に職場体験に行かせたり、村で創作活動をしている方々の店を出したりと枠を広げていくのも面白い。	
			統合	自己肯定の為に必要な「誰かのために動く、必要とされる、感謝される」は家の中だけでは得にくいものですので、これを学ぶための課外授業や体験に時間と力を入れて頂きたいと思います。農作物の手入れ、収穫、パッケージ、販売(店頭、ネット)、会計などを課外授業などで実際の社会人から学びながら生徒主体で事業を経験する、各種アーティストの方々との触れ合いによって、物作りや音楽等に触れ、表現する事に慣れる。中川村は個性的な大人が揃っていると感じますので、協力を得られれば良い学びの機会があると思います。	
				小中一貫の中での交流：近隣自治体、出身の有名人、スポーツ選手を招いての学習会、村の技術者、経営者、村長の出前講座など。	

学級・学年の運営設計	同級生の数の保確	統合	クラス替えの実施 。	・小学校クラス数の維持 ・ 定期的なクラス替えの実施
		統合	大人数の中でもまれたほうが人間思いやりや競争心も現れてくるのではないでしょうか？	
		統合	9年間同じクラスと言うのは子どもたちの交流などにも良くないと考えます。 なので、小学校家庭が終わった段階でクラス替えや3年に一度のクラス替えなどを希望します。	
		その他	9年間過ごして、高校へ行ったときに高校ショックは軽減できるのか…わかりません。クラス替えが出来るのなら環境の変化に対しての免疫はできそうですが。	
			出来れば、小学校から統合し、少人数でもクラス替えできれば、クラス替えをして、いろんな人と関わる体験をしてほしい。	
	縦のつながりの強化	統合	小学生は中学生の行動態度を学び中学生は小学生のお手本になれるように学校生活を送ってほしい。少子化で身内も少なくなった現在おもいやりややさしさを知らないで育っている人が多いように思う。	・学年を越えた交流、縦のつながりによる多様性の確保、成長機会づくり
		統合	異年齢者間での力の差を覚え集団の中での生活を覚える年長者、年少者の互助関係を希望します。	
		統合	全校文化祭(小学生から年上の発表や出し物を見て発想の視野を拡げていってほしい)、全校勉強会(教え教わって全校の基礎学習能力向上につながれば良い)	
		統合	統合してもランチルームは維持して、全校生徒が同じ空間で給食を食べられるようにして欲しい。ランチルームがあれば、イベントや講話等の幅も広がると思う。全校生徒が関われる文化祭を開催して欲しい。	
		維持	人数減少＝小中一貫は本来の小中一貫の趣旨からずれる。主体性、自己肯定感が低いので高学年（小）でのリーダーシップをとる機会は重要。西小のブラスバンドで上の子が下の子に責任をもって教えるのはすごくいい。他の学習でもとり入れてはどうか。	
体制整備	教員の質・体制をいかに担保するか	統合	地域だけに依存することなく、魅力的な外国語教育・科学教育。指導者の募集。	●教員体制の充実 ・専門教科の先生（理科・音楽等）の確保 ・学校統合をしたとき、教員の負担が増えずにうまく配置できるように配慮
		統合	小中一貫教育や小規模自治体での学校教育にくわしい先生や教育関係者を採用し、教育の質を上げる。	
		統合	先生方も人数が減ったとしてきめ細かな指導を今以上に推進することは難しいのではないでしょうか？人数が減った方が具体的にどういう教育ができ、不登校の児が減るのかというデータがあるのであれば分校もありかと思いますのでその場合はご提示頂けたらと思います。	
		統合	小中一貫校にすることで教員数を減らすのではなく、余裕のある配置にして欲しい。 特に中学校では部活動を保護者や地域の方々に依頼していることが多いが、村には対応できる人員が少なく、同じ人に負担がかかりすぎる傾向がある。 また、多くの方が定年退職後も働き続ける割合が多く、生活（子育て世代ではない）に余裕のある方が対応することも期待しにくい。 ボランティアではなく、賃金を支払う形の方が、関	
		維持	小学校では児童数に対する教師の人数が多いほど1人1人に力をつけてあげることができる。統合しても県より（村費ではなく）小学校2校分の教師を入れてもらえるならば統合が良い。	
		維持	統合されることで教員1人に対しての受け持つ生徒の数が多くなり、生徒一人ひとりに寄り添える余裕もなくなるように思えます。統合であれ、維持であれ、教員1人に対しての受け持つ生徒の人数に余裕があり、日々こなすカリキュラムにも余裕がある教育環境にしていくべきかと思います。	
		その他	社会生活でいえば、現状の10人台のクラスでも先生の目が行き届いていないことを感じる。発達段階の課題は飛ばして獲得することは出来ないように、年齢が小さければ小さい程、手をかけることで成長した時に安定した人間になれるのだと思う。高一ショックにならないためにも、幼少期、小学校では一人一人に目が向けられるよう手厚く接していくべきと思う。	
			教育現場の交流が欲しい。	
	地域と学校の連携をどうするか	統合	仮称「学校応援団」の設立、充実。地域の特技者・学識者一体となって教育できる体制づくり。	**●地域と学校の連携体制の強化** ・地域連携を推進する教員の確保 ・地域が協力することによる、教員負担の軽減
		統合	行動を温かく優しく見守ってもらえる地域住民の心の広い協力も不可欠であると思う。	
		統合	学校以外の活動に力を発揮できる人（村民）がバックアップ、サポートすることができるとより教育に厚みが出ると思う。	
		統合	村全体での連携を大切にしていただきたいので、運動会など村民参加の村の運動会にするのはいかがでしょうか。子供がいない方々にも子供と接していただいて登下校時にも防犯を兼ねコミュニケーションを気軽にしてもらえたらと思います。	
			住民参加型はよいと思います。	
ハード整備	校舎の建設をどう考えるか	統合	牧ヶ原を「educational base」として小中一貫の教育カリキュラムを実践。教育施設や予算を集中化。	・立地の検討
		統合	行事など校庭やグラウンドが狭ければ社会体育施設を使用したら良いと思いますし、中学校付近は図書館などもあり、学習の場としては村内で最適だと思います。	
		統合	統合後の近くに保育園もひとつにしたほうが良いと思う。	
		その他	公民館、役場、村民グラウンド等の村有設備と学校の一体化。村長イコール校長。	
		その他	小1校、中1校の校舎を新設し、プールは2校共用か外部スイミングスクールを活用。グランドや体育館は村営施設を活用しコストダウンをはかってはどうか。2校を近くに作ることにより統合せずとも小中の連携は可能です。教員の配置が認められるかの確認は県にする必要がありますが、一考の価値はあると思います。モデルケースとして阿南第二中と新野小学校をあげておきます。	
		その他	今の中学の場所に、新に建物を建て小学校を統合する。体育館等、小中学校で共有したらいい。	
	設備や備品をどう整えるか	統合	学校農園、学校動物園、学校養魚池などふれあいの場があればいい。	・学校を統合する分、設備や備品を良いものにしていく
		統合	学校の教育環境を良くする（感染症対応の充実・手洗い場・洗口場の数を増やす、全教室換気扇をつけるetc.）。	
		統合	自宅の環境は様々なので、統合するのであれば、図書館や自習スペースを充実させ、村の図書館やコワーキングスペースとも近接するうようにすると、おもしろい。高校生も使えると尚良い。	
		統合	小中一貫にするのであれば村の施設とは別に、学校の施設を充実させて、教室なり体育館なり小学生中学生それぞれに制限が出ないように、困らないようにしてもらいたい。	
		統合	身近に年寄りがいない子供も多いので、デイサービスの施設が敷地内にある環境にすれば相互にいい影響があるように感じます。	
通学環境の整備	通学手段をどう確保するか	統合	統合する場合、学年年齢問わず通学にスクールバスを導入してほしいです。現状うちの小学生は帰宅に1時間かかっている。その時間と体力を消耗する事を、他の体験や学習に当てた方が良い。他所の地域との格差になる部分を改善してほしい。 空いた時間にクラブ活動のような体験の場を充実させてくれると尚ありがたいです。	・スクールバスの運行
		統合	「統合」にするなら、送迎の交通手段の拡充をお願いしたい（デマンドタクシー等の利用拡充）。	
		統合	統合した場合スクールバスを用意していただけるとありがたいです。	
		統合	統合して、場所の問題は常について回る。特に年少学年の通学はコミュニティーバスを利用することになり、昨今の運動能力低下に直結する。体力は体だけでなく頭脳活動にも重要なポイント。	
		維持	私の家庭は家族がみな忙しくしていたため、部活動や行事などに参加したくても送迎を頼みづらく、結局参加をあきらめたことが多々ありました。学校施設が分散していることで、「ここなら近いから行ける」という選択肢が増えるのではないでしょうか。（統合の場合も）子どもたちの送迎方法を家庭に丸投げではなく、学校ないし行政がサポートする必要があると思います。	
社会教育環境の整備	児童生徒と地域行事との関わり	統合	大人になっても中川村で働き、暮らしたいと思えるように村内の魅力が伝わる行事と共に、都会や地方の経験をしてもらうと良いと思う。大人の背中を見て育つはずです。	・地域の行事、ボランティアへの参加 ・「子ども会」の広域化
		統合	学校の「子供等の声がやかましい」という意見もあるという現在。地域住民がかかわるという行事は大切と	
		維持	地域の活動や行事に参加することにより、中川村全体の人との交流にもつながることが、人間性を作るのにも良いと思う。	
	クラブ・部活動の運営	統合	生徒数が少なくなってきている為、もっと地域の方との交流や、部活動などは幅を少し広げてバスケットボールやサッカーなど増やして欲しい。 地域の方々にコーチを依頼し先生たちのサポートが出来るように	・他の市町村のスポーツクラブに合流する（外の子と触れあう機会をつくる） ・運動部だけではなく文化部の選択肢を増やす（地域・近隣町村との連携）
		統合	部活動の地域指導者をボランティアに頼るのみでなく、報酬をきちんと払えるような体制（財政支援）を考	
		維持	部活動や休みの日のクラブ活動は、他校の人と練習をする、合宿するなど違った環境で育った人と一緒に学ぶ機会を増やしていければ良い。多様な人間関係を作るのは、学校よりも部活、クラブの方が多いと感じる。	
		維持	スポーツ等の村の中だけでは指導者を立てる中で探すのは大変になってくると思うし、生徒だけでは部活動が人数が少ないと思うので伊南の4市町村で協力し合い合同で活動をしていくなどをしていけたら良いと思います。	
		その他	文化系と運動系の部活を掛け持ちできるような活動方法、学校外、地域外のクラブに参加することも可能な部活動運営をしていくべきではと思う。	

その他の視点	東西小学校の合同・融和	統合	各校の伝統は残しつつも、両立しないような行事などがあった場合に廃止にするなど、伝統に引きずられないようにして欲しい。 地域に根ざした学校ではあると思うが、児童にとって何が最良であるかを優先する	●「１つの中川」づくり ・東・西の意識がないような体制をつくる ・東小・西小の交流、合同行事があっても良い
		統合	それぞれの学校で伝統としておこなわれてきたものは残してほしいです。	
		維持	東西統合となるには、子供たちの安全を確保できてから。東・西小学校がもっと交流機会をすればいい。通学時、保護者、先生に負担がかかる。何かあれば村が責任をとってくれるなら考える。まずは登校して集団で移動し、東西の交流を深めることから。	
		維持	小中一貫教育の実施の前に東小と西小の生徒が交流する機会をもっと増やしてからではないかと思う。	
		維持	高学年から定期的な東西児童の交流会を開催し、1中合流時の、スムーズな人間関係を狙う。 また、2小1中は、必ず6年後に環境変化を体験出来ることから、将来幾度と遭遇するであろう環境変化に慣れる為の訓練	
		その他	学校行事を合同するなど、少ないからまとめてしまうだけでなく何か方法はないかな？と考えます。	
	先進事例を研究する	統合	小中一貫教育、全国の事例を良く参考にして欲しい。	・事例研究
		統合	すでにある一貫校の意見を参考にする。そのうえで判断。	
		統合	すでに小中一貫教育を実践している学校にメリット・デメリットを聞くことによって望ましい方向性を見出す必要あり。	
		統合	全国の村の問題だと思います。全国の良いと思う学校を選んで議会、役場、代表村民でじっくり話し合うことだと思いますが、絶対いいという話にはならないと思いますが少しは良くなると思います。	
		統合	東京都の麹町中学校、山形県の天童中部小学校の取り組みに、中川村の子どもたちに必要な学びのヒントがあると思う。そうなるために大人がどのように子どもたちと関わっているか多くの人に知ってもらいたい。せっかくのチャンス。視野を広げて実践校から積極的にヒントを集めたい。	
		統合	まずは保護者、先生、地域の大人たちが、率先して勉強し、世界や日本の事例を学び、意識を変えていく必要があるかと思います。	
		その他	近隣や全国にも、人気のある村があり、そこのケースを真似してみるのもいいと思う。実験ではないので独自ばかりでなく、きちんと根拠のある専門家の意見も参考にしてほしい。アンケートの取り方一つにしても、きちんとした順序、方法を取るべきだったと思う。統合するか否かはとても重要なことなので、今度こ	
	情報発信・移住促進につなげる	統合	「中川村で学びたい」と願う他地域、都市部生徒、海外の留学生の柔軟な受け入れ。	●移住促進と移住者の受入環境づくり ・特徴的な教育のプロモーションによる移住者呼び込み ・都市部からの積極的な子どもの受け入れ（山村留学など） ・地域活動にあまり関わらない家庭でも、教育を通じて地域にとけこめるよう配慮する（移住者などが地域＝教育に関わりやすいようにする）
		統合	現状、中川村で生まれ育った若者の多くが村外で暮らしていると思います。しかし、村に戻ってくる人、村外で暮らす人がいるのは自然の流れだと思いますので、重要なのは移住したいと思う子育て世代が中川村を選んでくれる魅力的な教育方針、補助制度、地域性、就職環境になると思います。軽井沢風越学園では、野外活動や体験から学ぶことを大事にしていると友人から聞いています。座学ばかりではなく、長野という自然に恵まれた環境を生かした教育を取り入れることが他校との差別化ができるのではないでしょうか。	
		維持	根本的な村民人口増の手法を当たり前の考えではなく、施設＋若い人の集う場所（村外から期待と思える魅力的な行事・施設）を作る、発信する。	
		維持	少子化で子供が少なくなっていきますが、 若い世代の中川村に定住する人が増えていけば子供も少なからず増えると思います。 そのために中川村の良さをもっと広く知ってもらう活動や、 子育て世代への補助の充実、若者向け住宅の大草地区ももう少しあっても良いのかもしれません。	
		その他	ほかの自治体と積極的に意見交換し、まず村外や県外からの子育て世代の移住者を増やす取り組みをした方がいい。このままではどのような施策を行っても数年先には教育崩壊に陥ってしまう。環境の異なる外部の子供が増えれば互いに刺激となり教育環境も変わっていくし、持続的な教育も可能になり教育自体の幅も広	
	校外の居場所づくり	統合	学校へ行きたくても行けない、生きにくい子たちが落ち着いて過ごすことの出来る施設を設ける。家庭学習では限界のある部分を補う為の学習会をひらく（オンラインでも可）。	
		統合	子供たちの主体性を育むために、遊育（子供達が自分の責任で自由に遊ぶ場・プレーパーク等）の場を地域に整えて欲しい。	
		維持	人間関係が固定化されることで、どうしても校内での居場所を失ってしまう子もいるはずです。精神科など病院、専門機関や近隣地域としっかり連携し、そういった子どもの居場所作りは絶対に必要です。	
		その他	人数が増えることでいじめが増えることも明らかになっているため、現状で不登校の子がいるのであれば、統合してしまえば学校が一つしかなければ余計に逃げ場を失うことになると思う。	
	子どもの意見の取り入れ	統合	そもそもの学校運営、意志決定の場に必ず子どもを入れてほしいです。また、「三者協議会」のような事例がありますが、保護者や地域の人も運営の場に入り、「自分は地域の学校をつくる一人である」という意識で、信頼と協力関係を築いて活発な学校を共につくっていけるといいなと思います。	
		維持	今の3，4，5，6年生、中学生等にも、村の財政上の事、校舎の老朽化などをしっかり話したうえで、子どもたちの意見も聞き取ることが必要と思います。子どもが主役なのですから。	
		維持	小中学生より意見を聞くことを望む。	
			保護者・村民の意見も、すごく大事だと思いますが中学生の皆さんの意見も聞いたらと思います。しっかりした意見・考えが出ると思います。安易に決められる問題ではないと思います。結果は行政の考えに決まったとしてもいろんな場所で意見を出し合って進んだ方がいいと思います。	